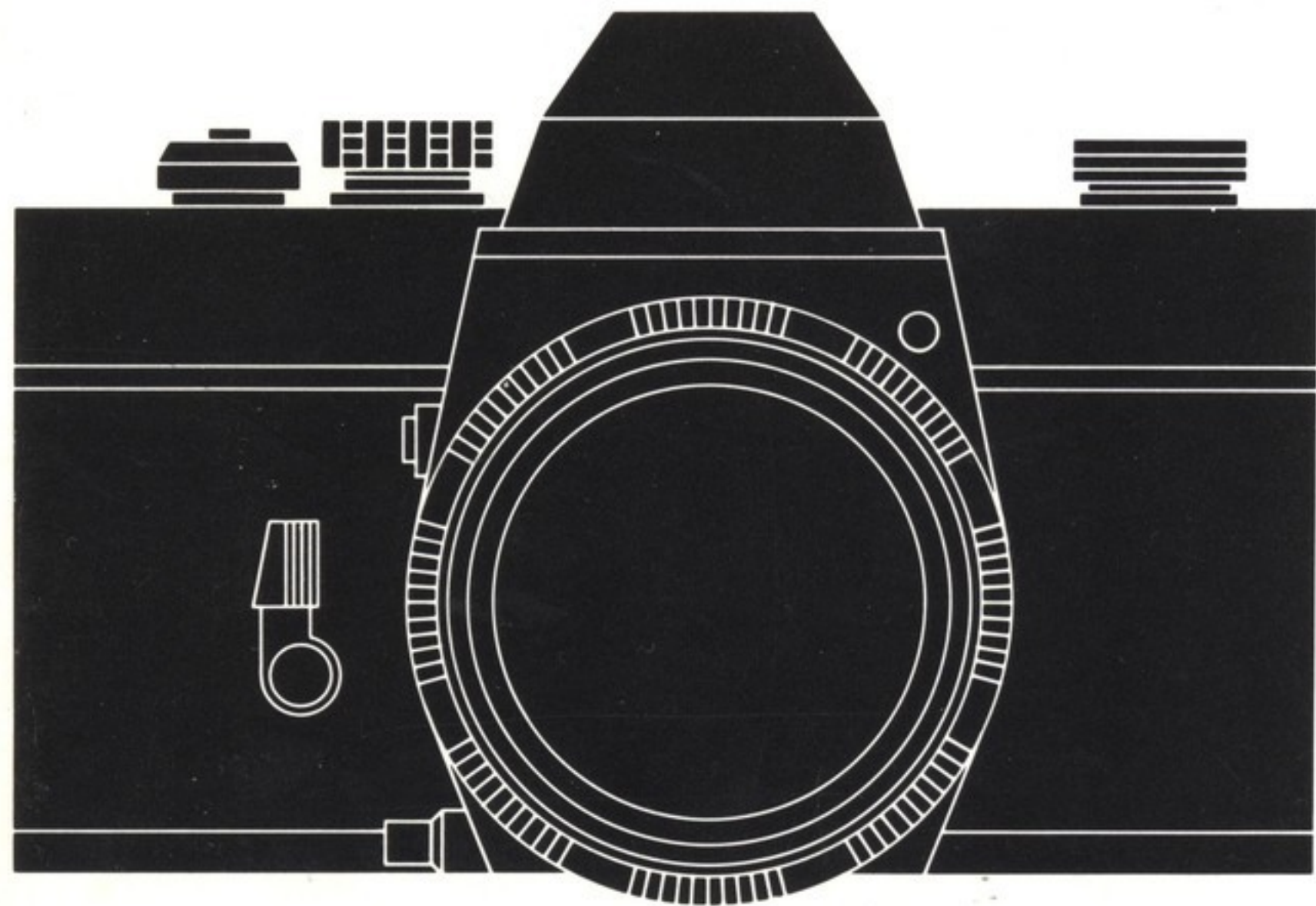


MINOLTA SR-T 101



使用説明書



お買いあげありがとうございます

ミノルタが新たに開発したSR-Tは、最も新しいカメラ技術と独自の創意工夫をこらしてまとめあげた高性能一眼レフの最新鋭機です。すぐれた描写力、卓越した操作性など、SRシリーズに共通するかすかすの特長のすべてを活かしながらTTL化に成功した新設計の完全TTLカメラなのです

この世界的な高性能カメラの性能を、さらに発揮させていただくため、豊富で多彩な交換レンズ群とアクセサリ一群がとりそろえられています

SR-Tの性能をフルに発揮させて、大いに貴方の腕をふるっていただければ、私どもの喜び、これにまさるものはありません。正しい操作とゆきとどいた手入れで、長くご愛用いただきますようお願い申し上げます

この使用説明書はF1.4 レンズ付になっていますが、F1.7 レンズ付をお求めの方も使用方法は同じです

目次

各部の名称	2
SR-Tの主な特長	4
主な性能	5
ご使用の前に	6
水銀電池を入れます	
バッテリーのテスト	
撮影の準備から完了まで	8
フィルムに入れ方	10
シャッター速度と絞り	13
新露出方式CLC採用のTTL	15
フィルム感度表示板	16
露出の合わせ方	17
カメラの構え方	20
ピントの合わせ方	21
絞り効果と被写界深度	22
絞り効果の確認は	25
ミラーロックボタンの扱い方	26
セルフタイマーはこんなときに	27
赤外撮影には赤外マークで	28
☉ はフィルム位置	28
フラッシュ撮影のやり方	29

フィルムの巻戻し方	30
レンズ交換のやり方	32
従来のSR用レンズを使う時	33
SR-Tと各交換レンズ群の測光方法	35
カメラの保存と手入れ	37



各部の名称

フィルム巻戻し兼裏蓋開閉ノブ

アクセサリシュー

ペンタプリズム部

シャッター速度兼フィルム感度ダイヤル

巻上レバー

シャッターボタン

フィルムカウンター窓

メーターカップラー(露出連動爪)

レンズ交換用ボタン

ミラーロックボタン

絞りリング

被写界深度目盛

セルフタイマーレバー

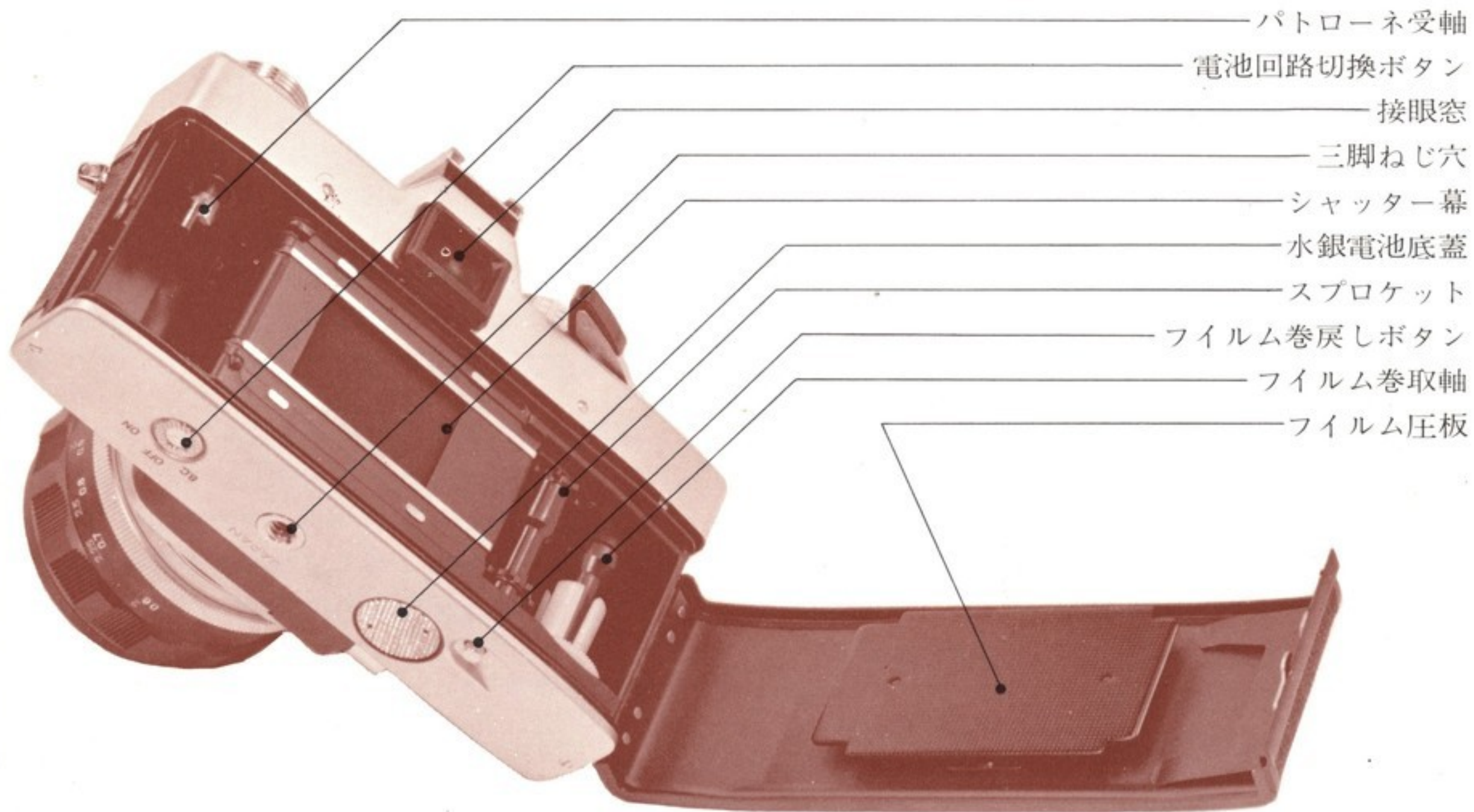
距離目盛

絞り込みボタン(プレビューボタン兼用)

焦点調節リング

標準レンズ





- パトローネ受軸
- 電池回路切換ボタン
- 接眼窓
- 三脚ねじ穴
- シャッター幕
- 水銀電池底蓋
- スプロケット
- フィルム巻戻しボタン
- フィルム巻取軸
- フィルム圧板

SR-Tの主な特長

1. 最も使いやすいTTL

- (イ)開放測光式の明るいファインダーシステム
- (ロ)ファインダーをのぞくだけで、撮影の可否が判断できる追針式
- シャッター速度のファインダー内表示
- (ハ)バヨネット式の迅速確実なレンズ交換

2. 測光精度の高いTTL

- (イ)新露出方式CLCの採用
- (ロ)開放目盛の角度補正を持つ正確な露出
- (ハ)ミラー切れは世界最小
- (ニ)独特の有害光防止機構付

3. 定評あるレンズの優秀性

優れたアクロマチックコーティングと電子設計による透逸な総合描写力

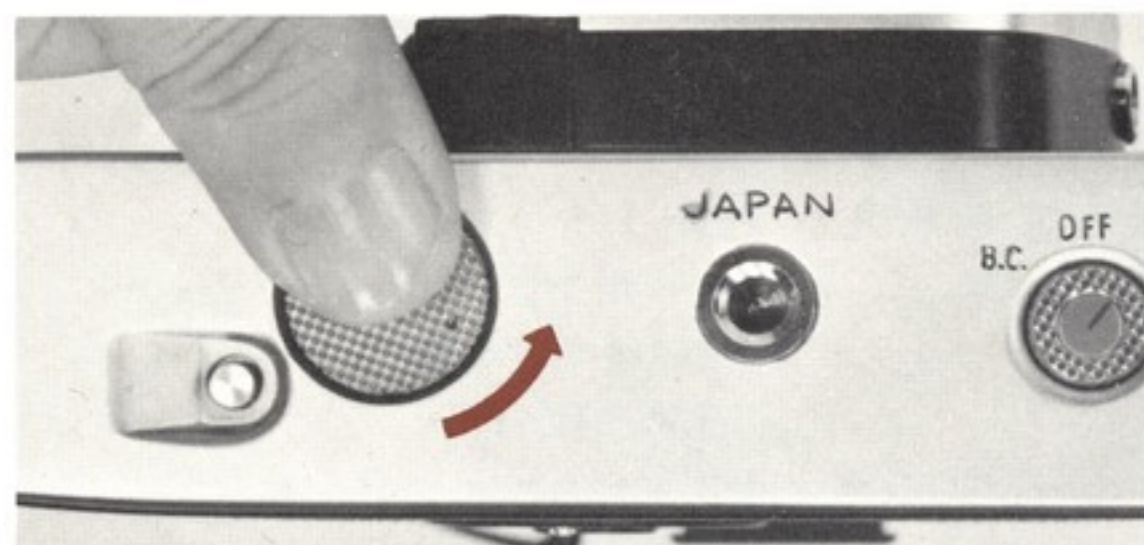
4. 広範囲な撮影をカバーするシステムカメラ

- (イ)多元的に用意された交換レンズ、および働きに応じたアクセサリ一群の完備
- (ロ)従来のSR用レンズ(SおよびCレンズ)も、TTL測光で使用可能

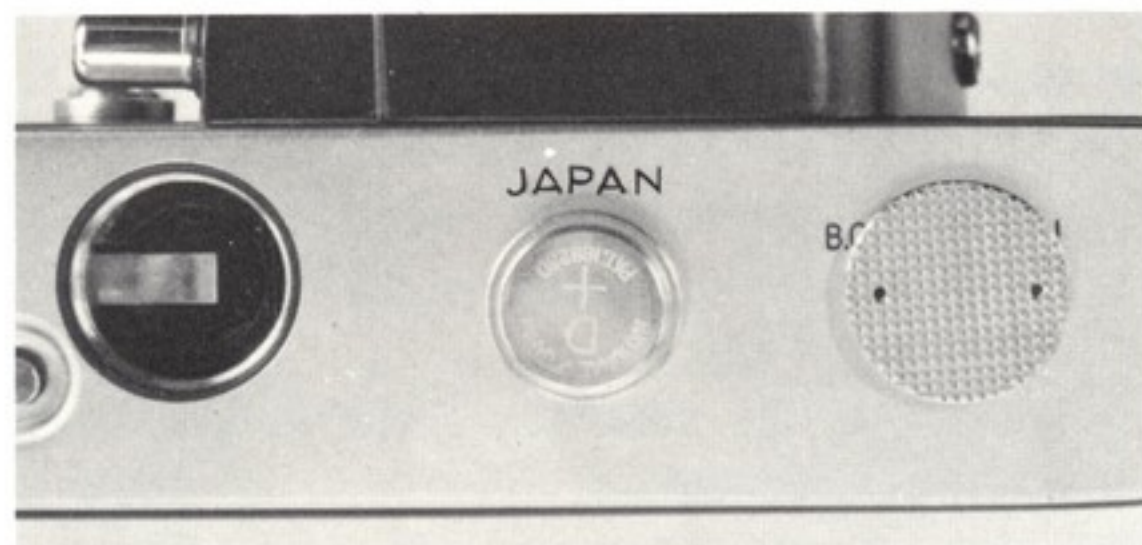
主な性能

型 式	J135フィルム使用のTTLメーター連動 35mm一眼レフ	ミ ラ ー	クイックリターン式ミラー (ミラーロック付)
画 面 サ イ ズ	24×36mm	ピ ン ト グ ラ ス	ファインマイクロプリズム
レ ン ズ	MC ROKKOR-PF F1.4 58mm MC ROKKOR-PF F1.7 55mm オートプリセット式(メーカーカップラ ー付)	シ ン ク ロ 接 点	X, FP
シャッター	フォーカルプレーン式B, 1~ $\frac{1}{1000}$ (等間隔目盛)	セ ル フ タイ マ ー	内蔵
露 出 計	開放測光式TTL CdSメーター内蔵 (CLC方式) (水銀電池JIS記号H-D型1個使用) ON、OFF、BC回路切換ボタン付	巻 上 げ	レバー巻上げ式(引出余裕角あり) 小刻み巻上げ可能 二重露出防止付
測 定 範 囲	EV 3~17 (F1.4付でASA100のとき)	フ イ ル ム カ ウ ン タ ー	順算式自動復元
フィルム感度域	ASA 6~6400	フ イ ル ム 装 填	フィルム巻戻し兼用の裏蓋開閉式
ファインダー	ペンタ式一眼レフレックス方式 メーター指針, 追針, バッテリーチェッ クマーク及びシャッター速度目盛ファ インダー内表示	フ イ ル ム 巻 戻 し	押止まり巻戻しボタン クランク式
		ア ク セ サ リ ー	従来のものと共用
		そ の 他	ボディにアクセサリシュー固定
		大 き さ ・ 重 量	145×94.5×47.5mm 705g(ボディのみ)

ご使用前の前に…



- 1 水銀電池底蓋に親指をあてて矢印方向に回し、蓋をあけます



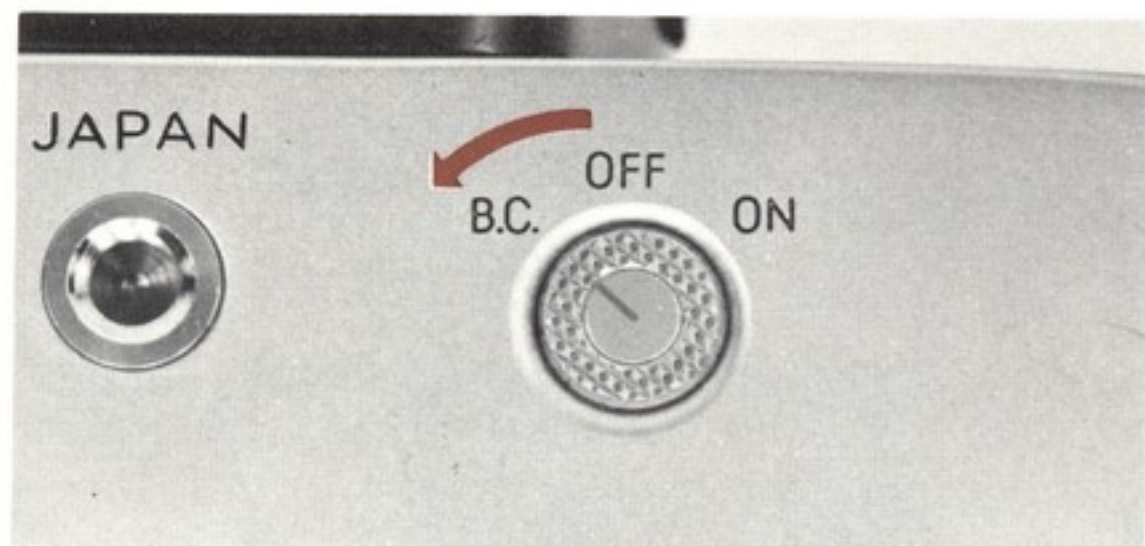
- 2 水銀電池の⊕極を外側にして挿入します
(水銀電池は、ナショナルMD型、東芝TH-MC型を使います)

注意

- ☆ 電池を汚れたままお使いになると、接触不良となることがあります
汗や油がつかないようにしてください
- ☆ しばらく使用しない時は電池回路切換ボタンをOFFにしておきます

- ☆ 長期間(1ヶ月以上)使用しない場合には、電池を取出して乾燥した場所に保存してください

● バッテリーのテストを...



- 1 水銀電池の回路切換ボタンをBCにまわします



- 2 ファインダーの指針が、図のようにチェックマークに位置しておれば、電圧は良好です

注意

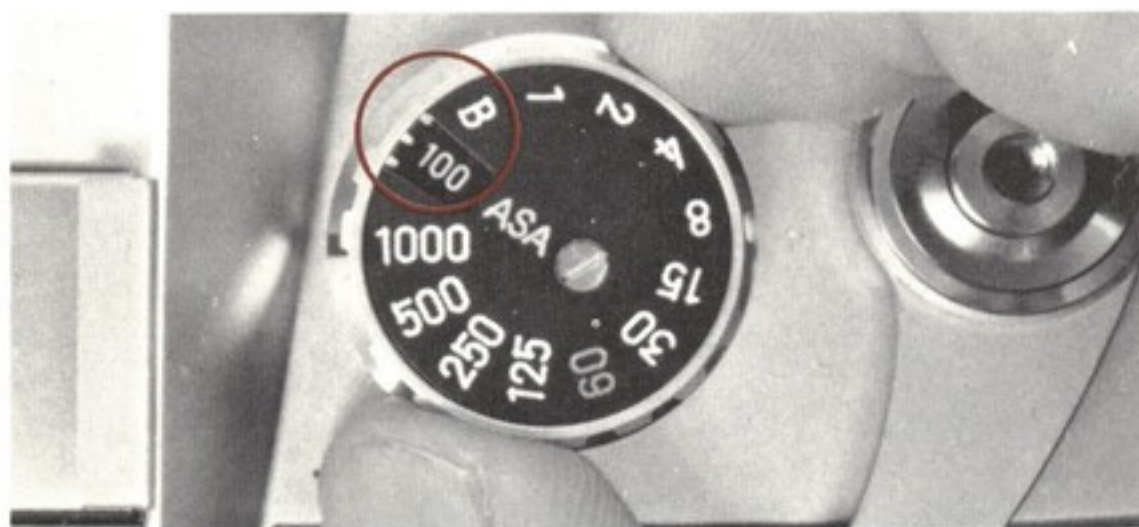
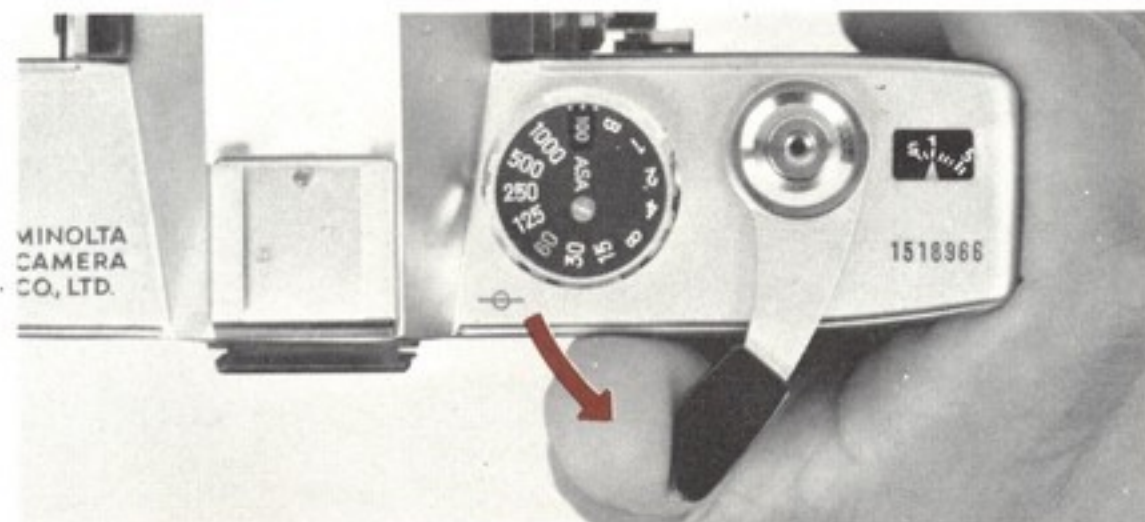
- ★ バッテリーチェックは電池の消耗がはげしいので、チェック後すぐもとに戻してください
- ★ 水銀電池の寿命は約一年。寿命がくると急激に電圧低下をきたします

撮影の準備から完了まで

1. フィルムを入れ、電池回路切換ボタンをONにします



3. 巻上げレバーを巻上げ、カウンターに1をだします



2. フィルム感度をあわせます

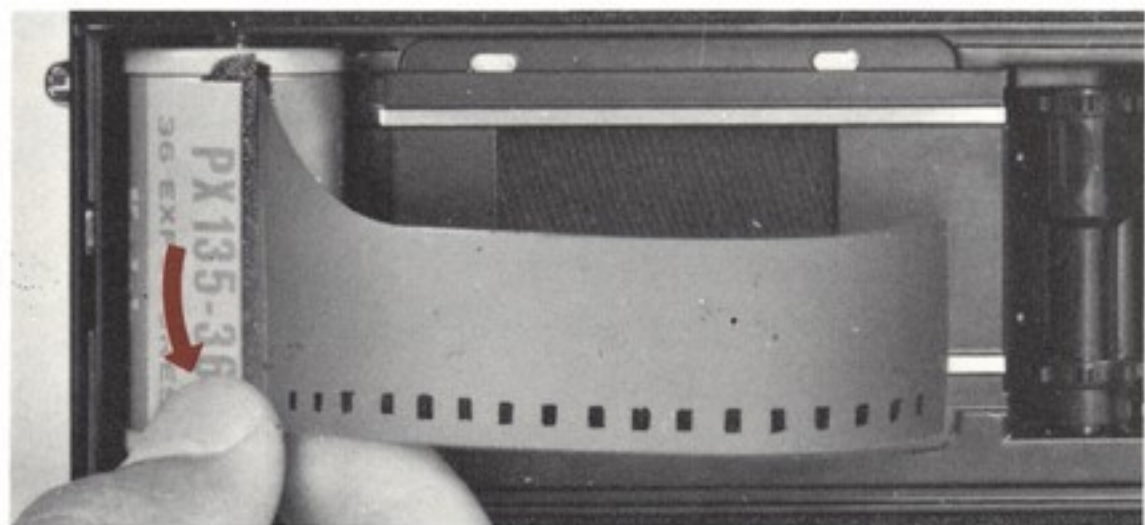
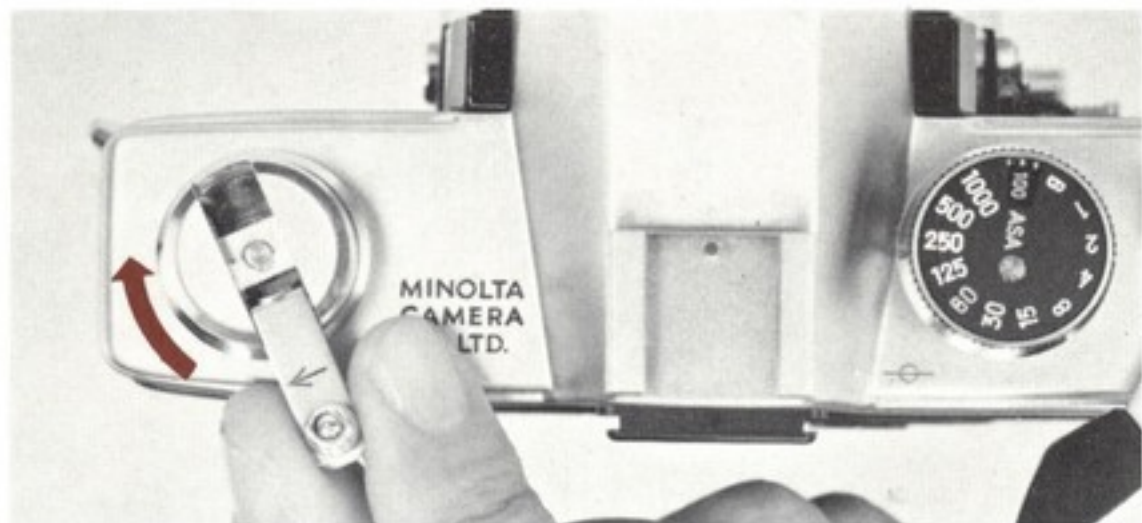


4. シャッター速度を決め、絞りリングを操作して露出を合わせます

5. ピントをあわせ、構図をきめます



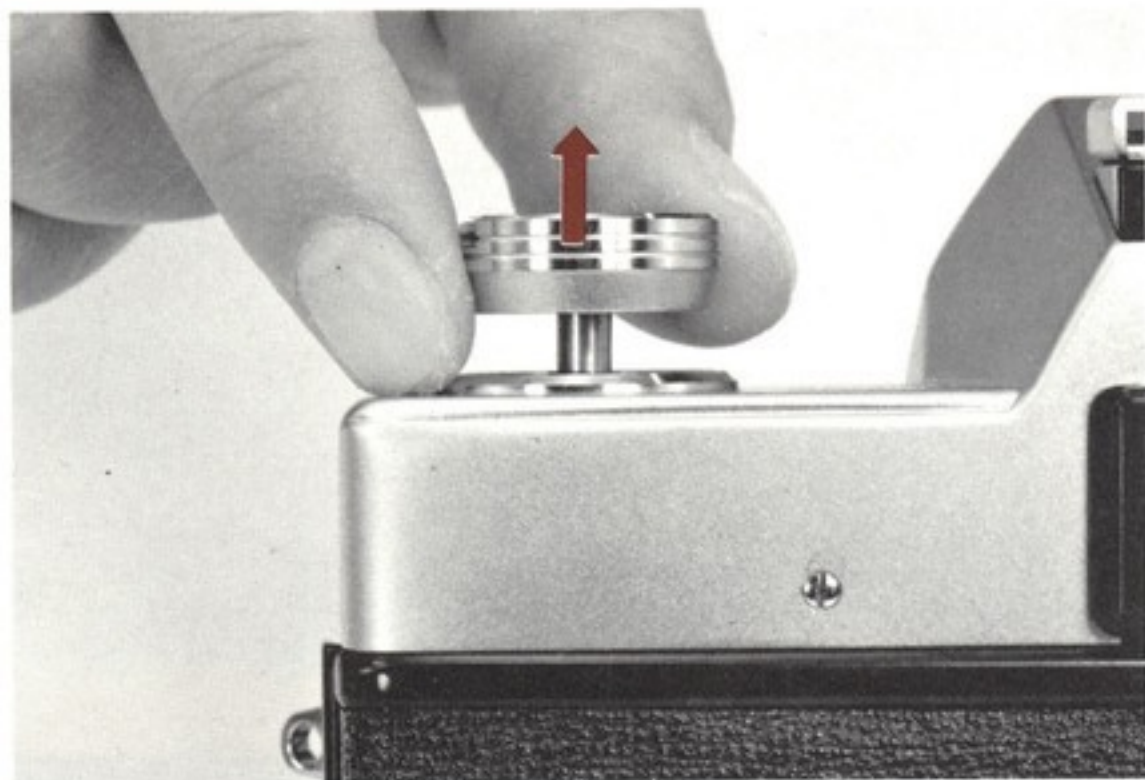
7. 撮影が終わると、撮影したフィルムをパトローネに巻戻します



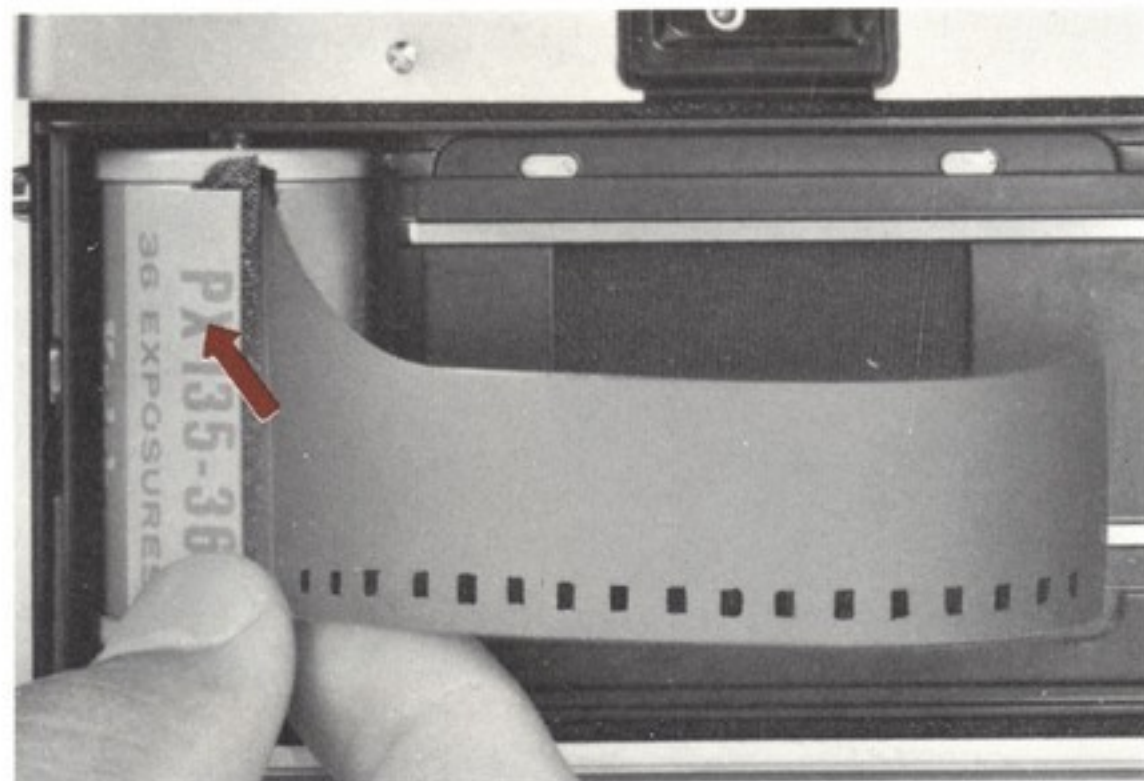
6. シャッターボタンを押し、撮影します

8. 裏蓋を開けて、パトローネを取出します

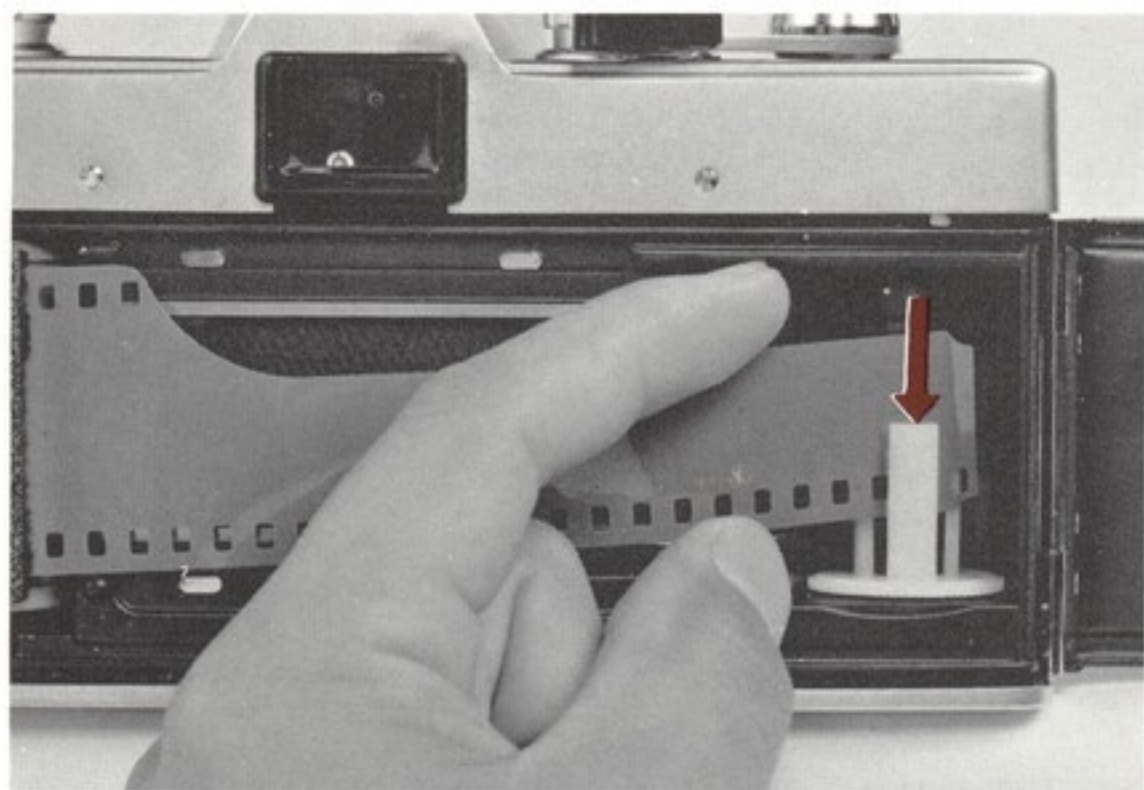
フィルムの入れ方



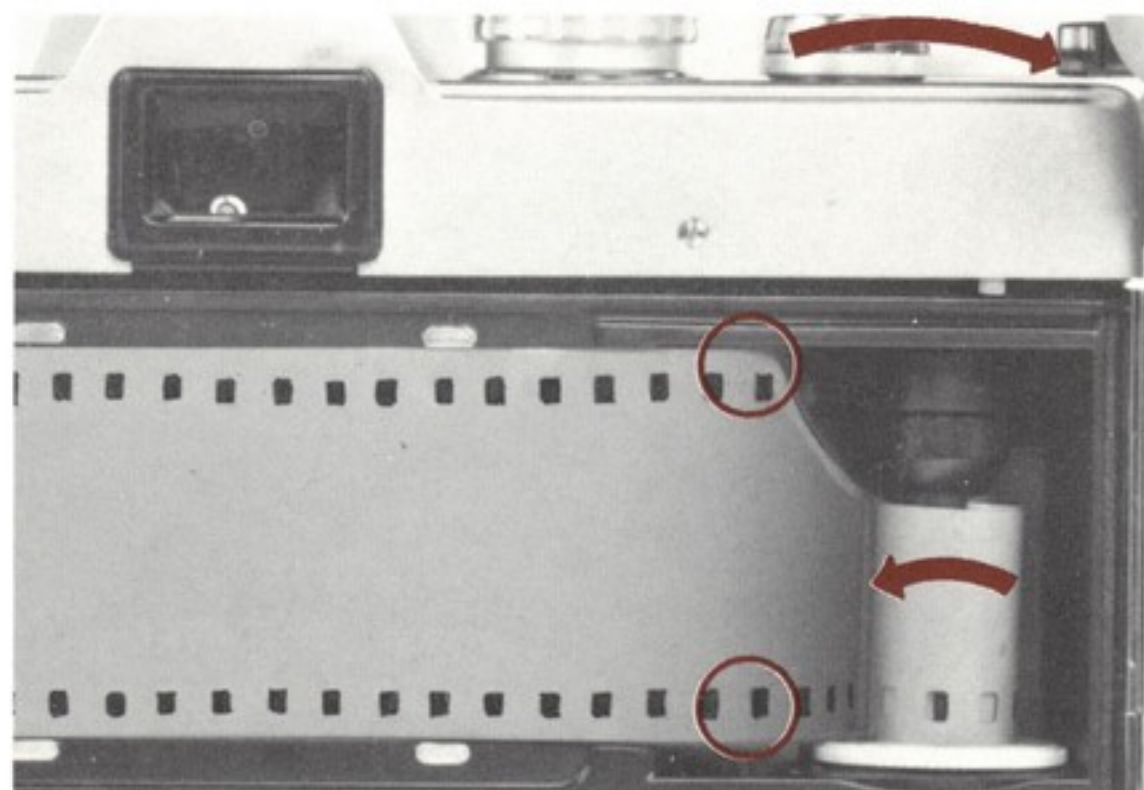
- 1 裏蓋開閉ノブ（フィルム巻戻し兼用）を引出し、さらに強く引くと裏蓋が開きます



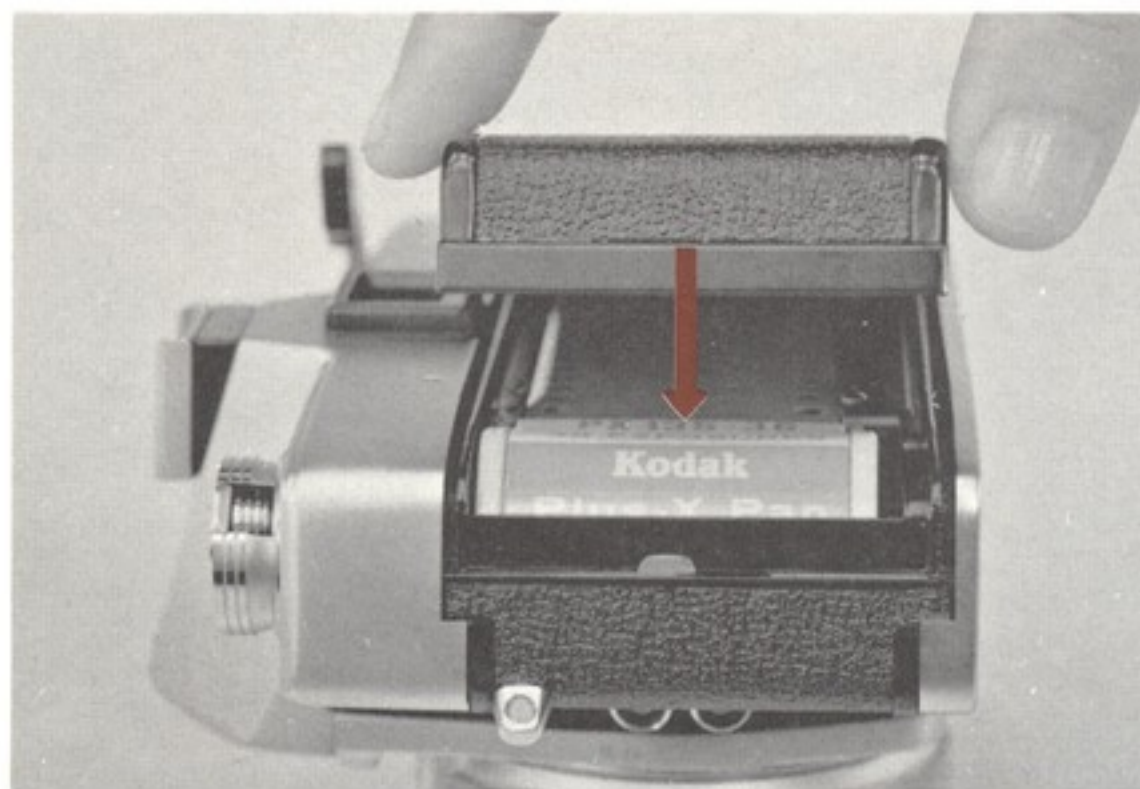
- 2 パトローネを、軸のある方を下にして入れ、開閉ノブをもと通りにします



- 3** スプールの押さえ板（4つあり）にフィルムを上から下（矢印方向）にさしこみます



- 4** 巻上げレバーで、フィルムを巻上げ、フィルムの両穴をスプロケットの歯にかみあわせませす。巻上げレバーが動かない場合には、シャッターボタンを押してください



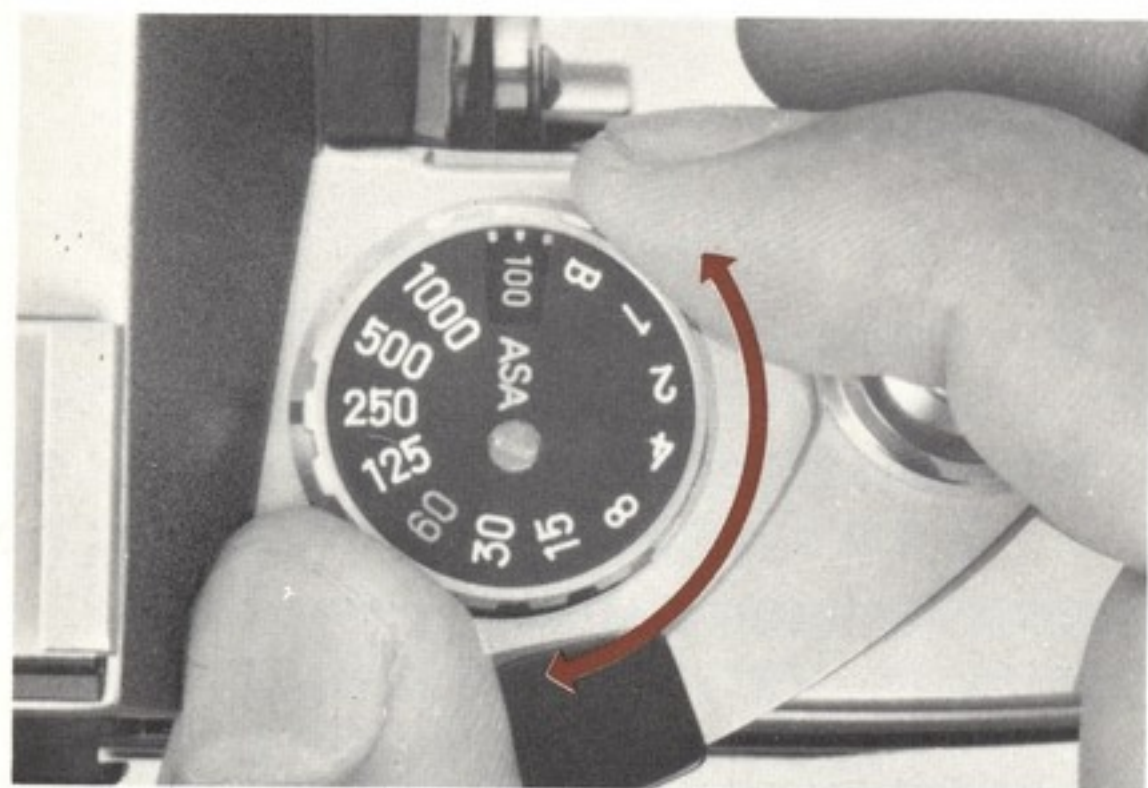
5 ファイルムが確実に巻取られていることを確かめてから裏蓋をしめます



6 ファイルムを巻上げ、シャッターボタンを押す操作を繰り返し、フィルムカウンター窓の△印に1をだします

- フィルムカウンター窓の数字（目盛）はフィルム1コマずつの働きを示します
- 連続撮影に便利のように、巻上げレバーには余裕角がついています
- フィルムカウンターは、裏蓋をあけたときにスタートマーク（S）に戻ります

シャッター速度と絞り











シャッター速度は、フィルムに入る光量を時間的にコントロールするので、被写体の動きを瞬間的に停止させる場合などに利用します

シャッター速度の調節はボディ上の赤印にシャッター速度ダイヤルを回して希望の目盛を合わせます。シャッター速度目盛のB、1～1000の数字は各々、バルブ、1秒・1/2秒…1/1000秒のシャッター速度を示します



- シャッター速度目盛のBは、2秒以上の露出が必要なときに使います
- 赤字の60はスピードライト（ストロボ）を使って撮影するときにも利用するシャッター速度で1/60秒です
- ファインダー内にも撮影時のシャッター速度目盛が表示されます
- シャッター速度目盛の中間は使えません

光量比	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
								
絞り	2	1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64



絞りは、フィルムに達する光量を調節し、ピントのあう範囲（被写界深度P-24参照）を調節します

絞りリングにはF1.4のレンズは1.4、F1.7のレンズは1.7というように各々レンズの開放時のF値から16までの絞り目盛（F値）が黒字できざまれています。絞りリングの希望する絞り値（黒字）を前部の白マークに合わせます

- 絞りは数値が大きくなるほどレンズを通してフィルム面にとどく光量が少なくなります
この関係は左図のようにF値が大きくなるに従ってレンズを通る光量が減っていきF値の1目盛の変化で1/2に変わります
- 開放絞りのF値からF16まで各目盛間の中間にセットすると中間絞りがえられます（クリックがついています）
- 絞りとシャッター速度目盛は互いに隣りの目盛の2倍、1/2の露光量となる関係になっており、露出調節はこの絞り目盛とシャッター速度の組み合わせで使います

新露出方式CLC採用のTTL

SR-Tは撮影レンズを通過してフィルム面に到達する光量を測るTTL方式です
露出合わせは、使い易い開放測光方式になっており、シャッター速度と絞りに連動する追針式で、しかも新露出方式CLCを採用しています

CLC (Contrast Light Compensatorの略) とはミノルタ独自の画期的なシステムで、より良好な撮影結果がえられる分割測光方式です

通常の被写体では従来のメーターと同様に適正露出を与え、しかも被写体輝度分布(画面の部分、部分の明るさ)の特殊な場合に従来のメーターよりもより適正な露出がえられる確率を高めるものです



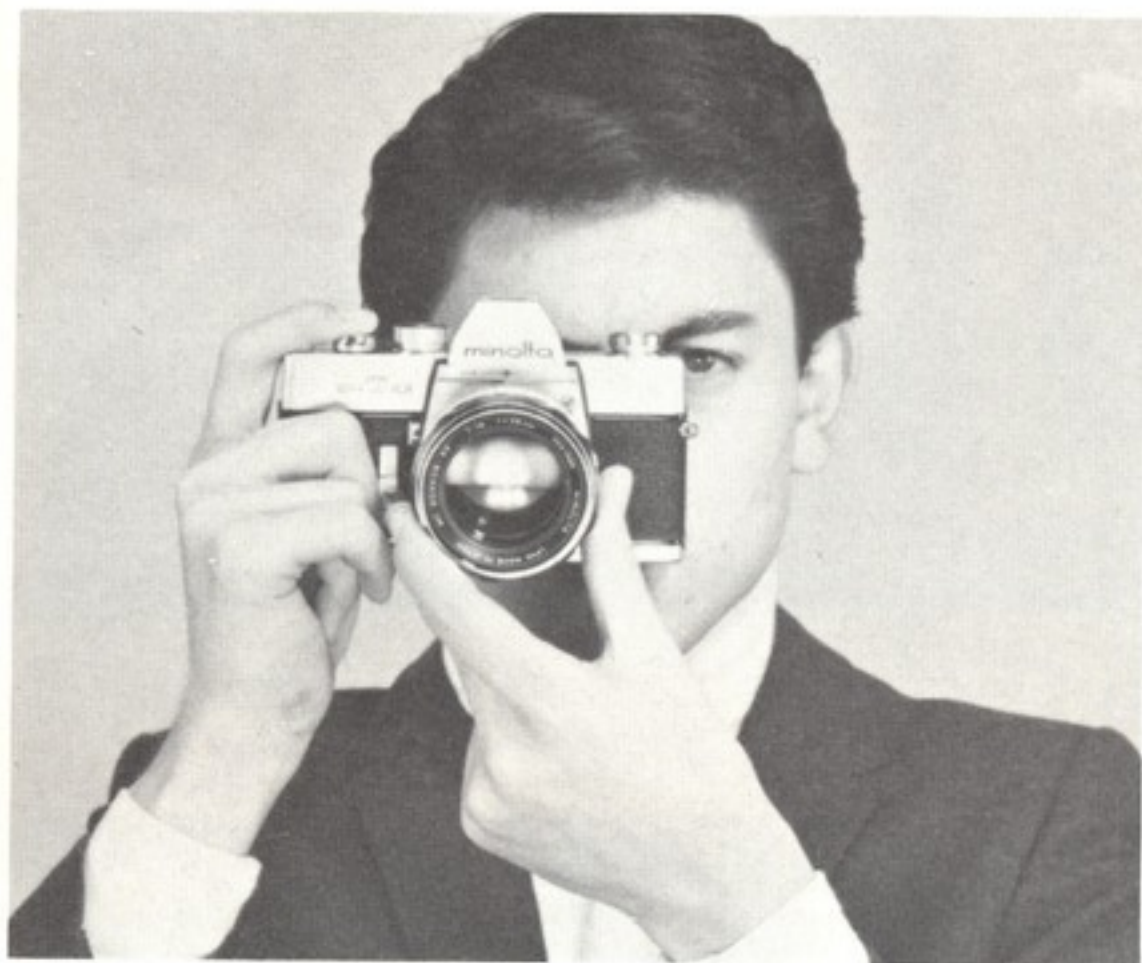
フィルム感度表示板

このカメラでは、フィルム感度表示板に使用中のフィルム感度を合わせますが、この目盛はASA表示となっています

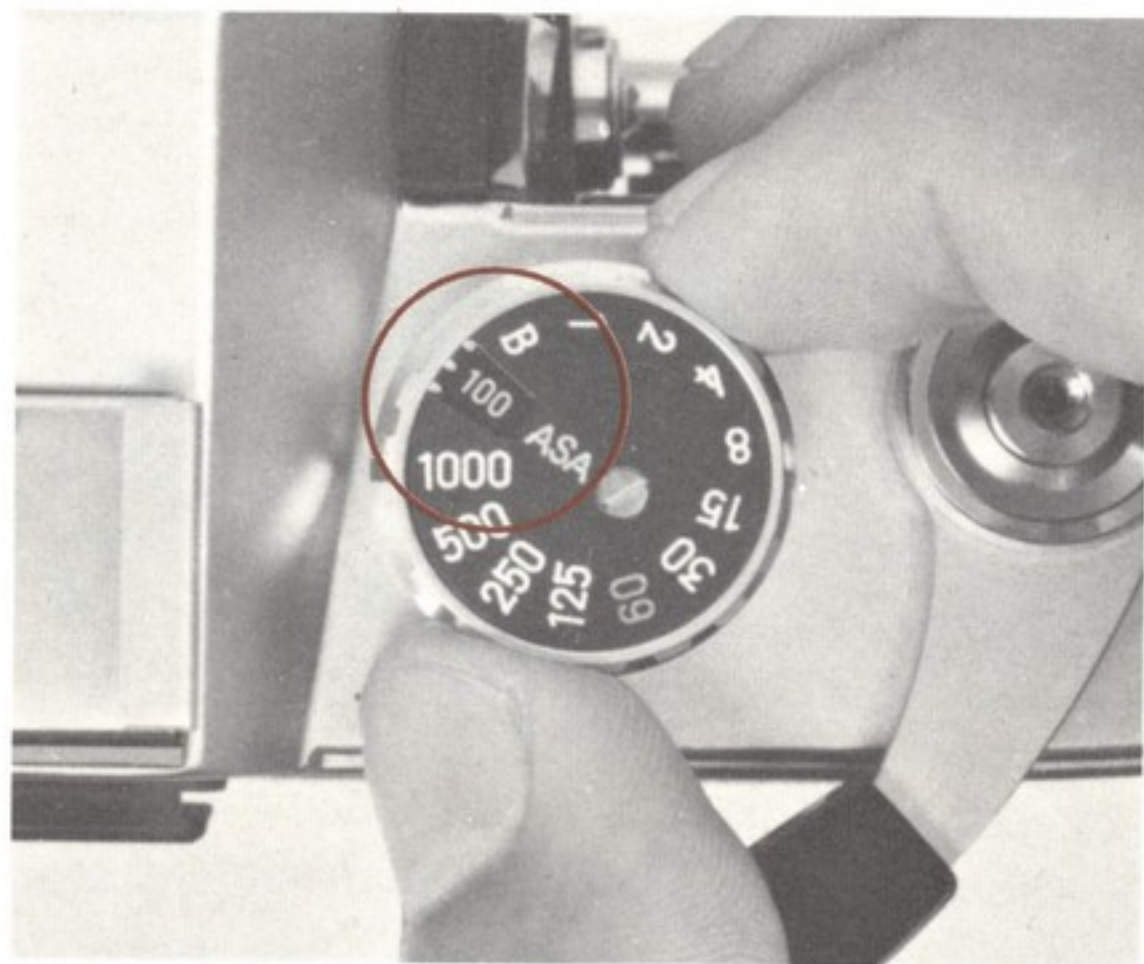
そこでDIN表示のフィルムを用いASA感度に換算したいときや、そう入したフィルム感度を忘れないようにするため、この感度表示板を利用します



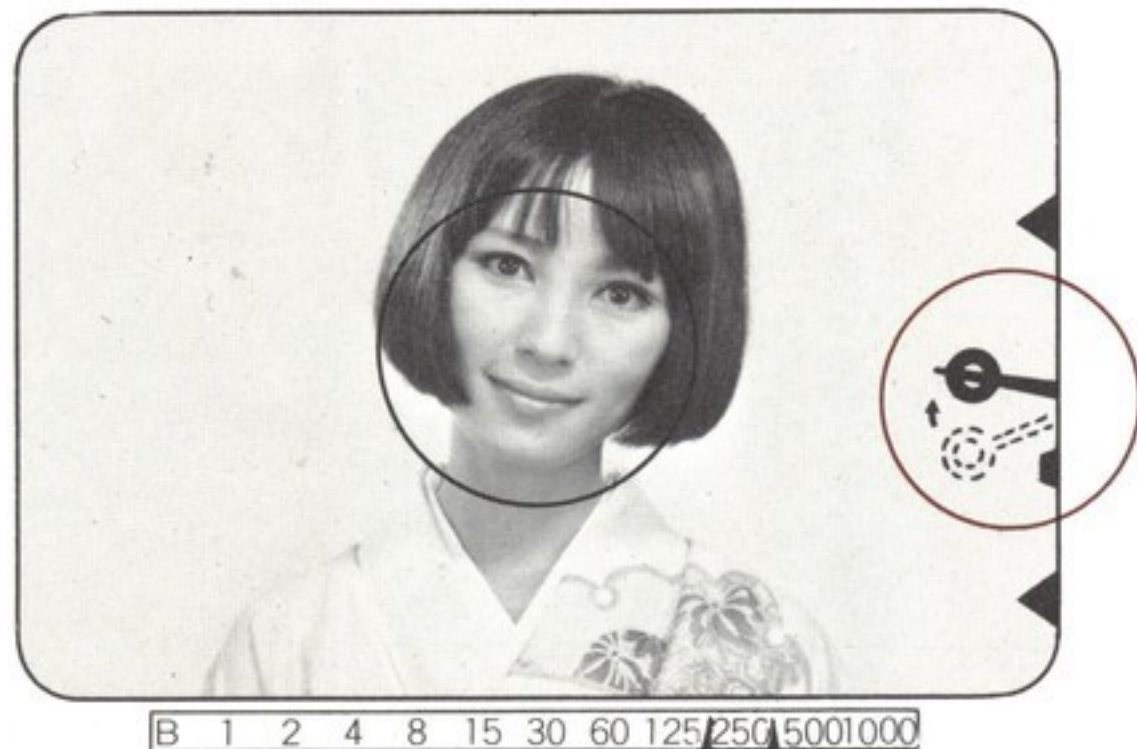
露出の合わせ方



SR-Tは、絞りを開放にした明るいファインダーのままで測光できる開放測光式のTTLカメラです。ただし、従来のSR用レンズ(S.Cレンズ)は、使用時の絞り値で測光する絞り込み測光となります(扱いはP-33を参照)



1. **ASA感度をあわせます**
ご使用になるフィルムのASA感度を、シャッター速度ダイヤルの外周リングを引きあげ感度調節窓の目盛に合わせます

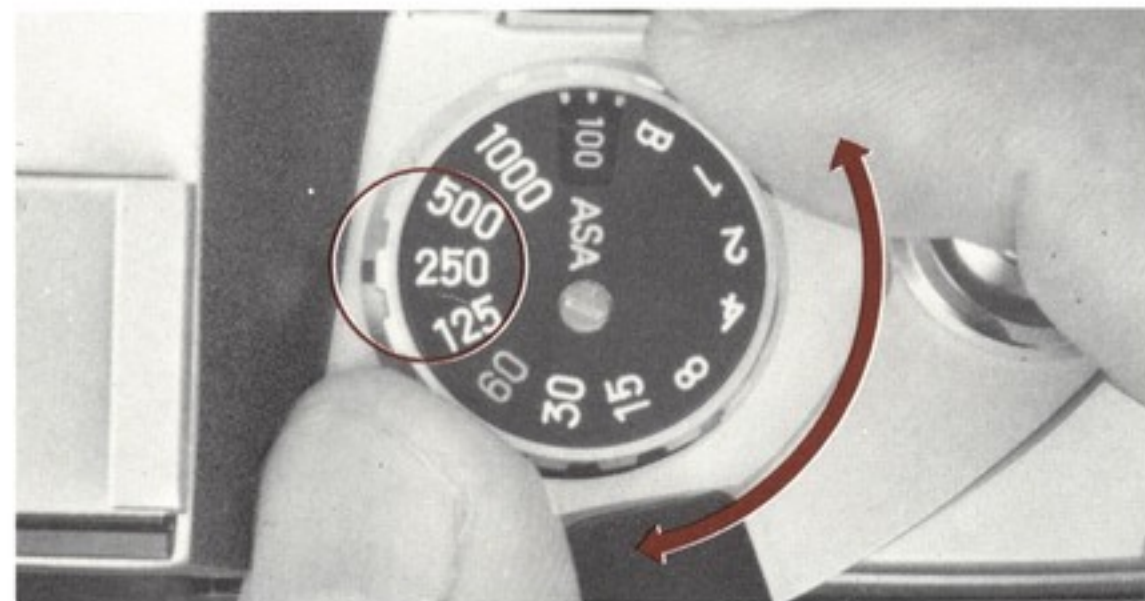


B 1 2 4 8 15 30 60 125 250 500 1000

2. 露出をきめます

開放測光のとき、巻上げレバーを巻上げ、被写体にカメラを向けると、ファインダー内のメーター指針がふれますから、シャッター速度ダイヤルまたは絞りリングをまわして、この指針に追掛針をあわせます

- 上下の◀マークはメーターの連動範囲を示しメーター指針がこの範囲内にある時はいつでも適正露出がえられます



ファインダーにシャッター速度目盛が示されるのでシャッター速度を合わせるとき便利です



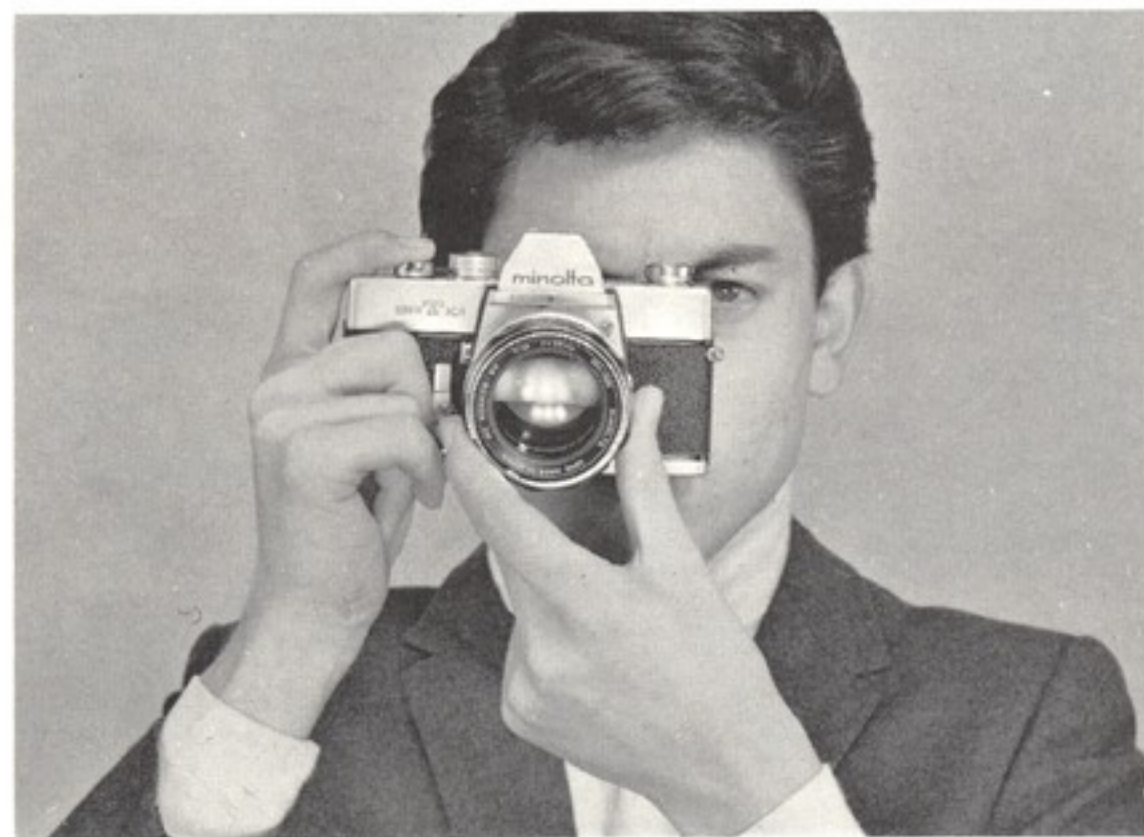
適正露出の絞り、シャッター速度の組合わせには、いくつかの組合わせができます。メーター指針と追掛針（絞り、シャッター速度に連動）は、ご使用のフィルムに対して適正な露出を与える組合わせのときにのみ一致します。その連動範囲はASA100でEV3～EV17です(F1.4のとき)

操作方法として一般的にはシャッター速度を先にきめ、それから絞りリングをまわして測光される方が容易に露出あわせができます。絞りリングをまわしても追掛針が動かないときは、シャッター速度リングをまわしてください

- ☆シャッターを切るたびにメーター指針が振れますが安心してお使いください
- ☆シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 以下のときは手ぶれにご注意ください。三脚を用いられるのもよいでしょう
- ☆SS級のフィルムの場合には、屋外撮影ではシャッター速度は $\frac{1}{125}$ ～ $\frac{1}{250}$ 秒、屋内では $\frac{1}{30}$ 秒にし、動体はなるべく速いシャッター速度にします
- ☆集合人物や建築写真のように被写界深度を深くして使うときは、できるだけ小絞りにします
なお、詳細は被写界深度表(P-24)をご覧ください
- ☆ベローズ、中間リングを用いるときの露出合わせは絞り込み測光式で使用しハンドプリセットレンズの場合(P-34)と同じになります
絞りを絞って接写するとき、接眼からとくに強力な光が入らぬよう注意して露出を合わせてください

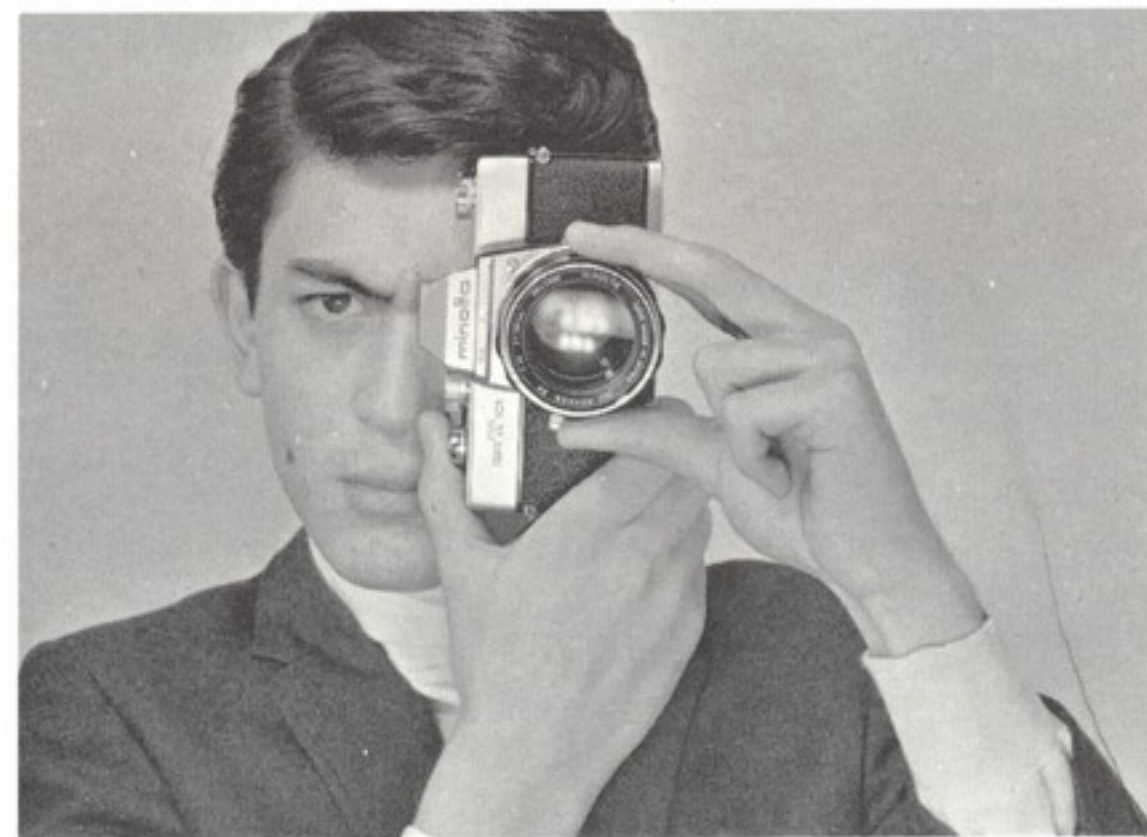
カメラの構え方

カメラの構え方には、大別して縦位置と横位置があります。いずれの場合にも、しっかりカメラを持ち、無理のない姿勢をとって、手ぶれがしないように心掛けてください。手ぶれは撮影結果を台無しにします



☆一般にはカメラを保持する方のひじを身体につけるとか、顔の一部に軽くつけるようにして支えます

☆縦位置は横位置よりも不安定ですので、とくにご注意ください



ピントのあわせ方

ピント合わせはファインダー中央部の交叉したマイクロプリズム群による距離計で行ないます。焦点調節リングをまわすと、中央のファインマイクロプリズムの像がはっきりしてきます。いちばん鮮明な像となったときに、ピントがあっています。



ピントのあっていないとき



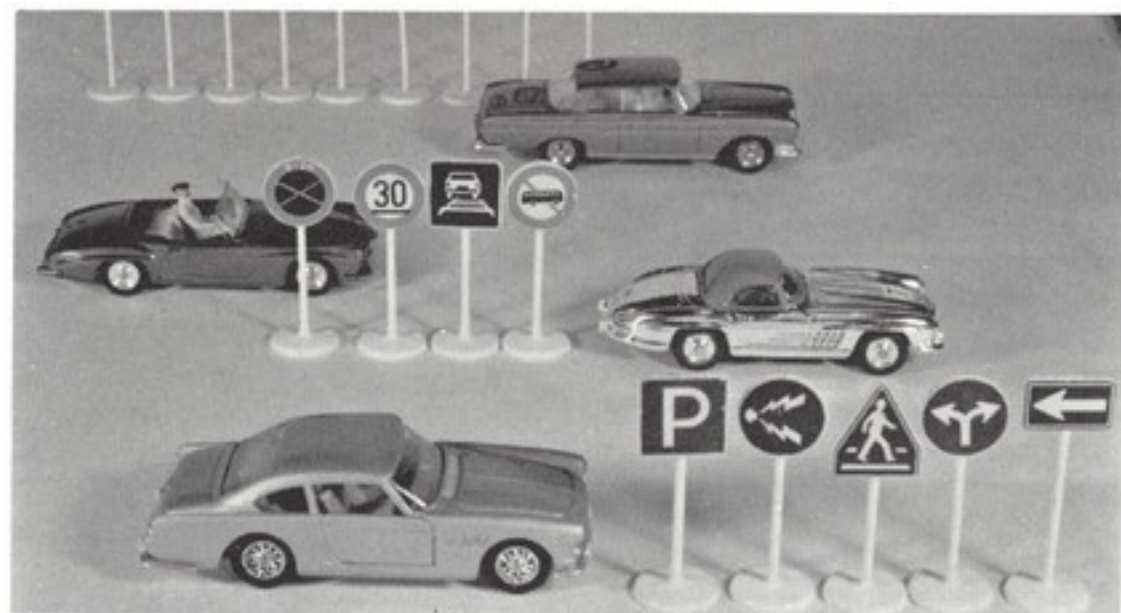
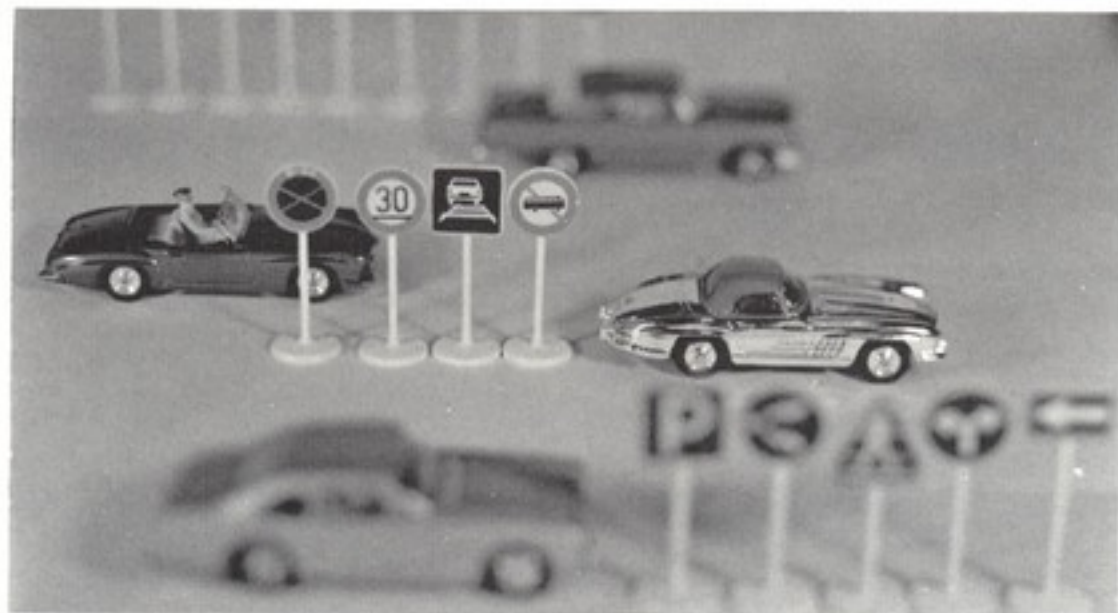
ピントのあっているとき

絞り効果と被写界深度

レンズの性質として、ある被写体にピントをあわせた場合、その前後にもピントのあっている範囲があります。これを被写界深度といい、前方深度(手前)は後方深度より浅くなります。被写界深度には次のような関係があります(次頁図参照)

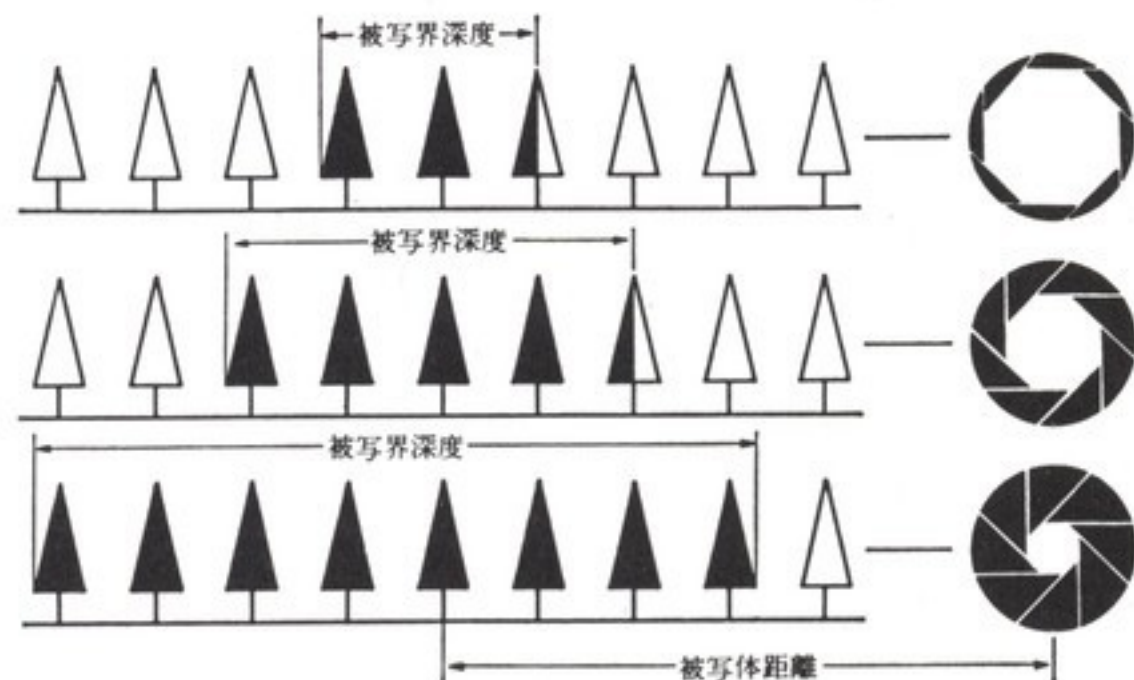
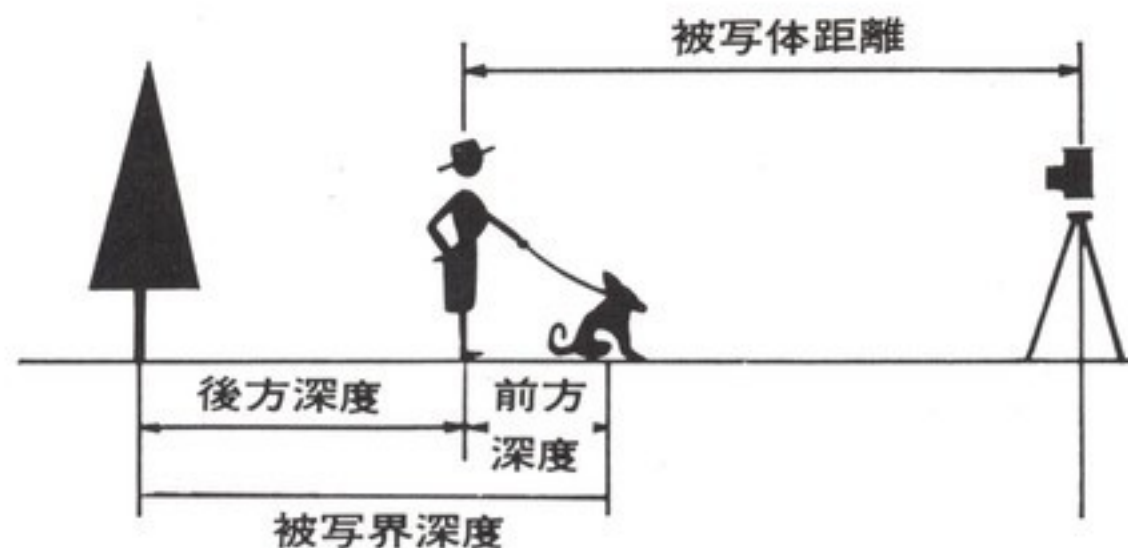
1. 絞り値が大きいほど被写界深度は深く、逆に絞り値が小さいほど浅くなります
2. 距離が遠くなるほど深くなります
3. 望遠レンズになるほど浅く、広角になるほど深くなります

絞りを開放にしたとき



絞りを絞ったとき

被写界深度は、各レンズの深度目盛でわかります。例えば、被写体距離が3 m、絞り値が8の場合には、◆マークの両側にある8の範囲内、つまり約2.5m～4 mにある被写体はすべて鮮明な状態で写真に写ります。この性質を利用して作画意図にあうよう撮影してください



被写界深度表

MC・ロッコール 58mmF1.4の被写界深度表

絞(F) \ 距離(m)	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
∞	∞ 74.2	∞ 53.8	∞ 38.0	∞ 26.9	∞ 19.1	∞ 13.5	∞ 9.6	∞ 6.8
10	11.5 8.8	12.2 8.5	13.5 8.0	15.8 7.3	20.8 6.6	37.7 5.8	∞ 4.9	∞ 4.1
5	5.4 4.7	5.5 4.6	5.7 4.4	6.1 4.2	6.7 4.0	7.8 3.7	10.2 3.3	18.1 2.9
3	3.12 2.89	3.17 2.85	3.24 2.79	3.36 2.71	3.53 2.61	3.81 2.48	4.29 2.31	5.22 2.11
2	2.05 1.95	2.07 1.93	2.10 1.91	2.15 1.87	2.22 1.82	2.32 1.76	2.48 1.68	2.76 1.57
1.5	1.53 1.47	1.54 1.46	1.56 1.45	1.58 1.43	1.61 1.40	1.67 1.37	1.75 1.32	1.88 1.25
1.2	1.22 1.18	1.22 1.18	1.23 1.17	1.25 1.16	1.27 1.14	1.30 1.11	1.35 1.08	1.42 1.04
1	1.01 0.99	1.02 0.99	1.02 0.98	1.03 0.97	1.05 0.96	1.07 0.94	1.10 0.92	1.14 0.89
0.9	0.91 0.89	0.91 0.89	0.92 0.88	0.93 0.88	0.94 0.87	0.95 0.85	0.98 0.84	1.01 0.81
0.8	0.81 0.79	0.81 0.79	0.81 0.79	0.82 0.78	0.83 0.77	0.84 0.76	0.86 0.75	0.89 0.73
0.7	0.71 0.70	0.71 0.70	0.71 0.69	0.71 0.69	0.72 0.68	0.73 0.67	0.74 0.66	0.76 0.65
0.6	0.60 0.60	0.61 0.60	0.61 0.59	0.61 0.59	0.61 0.59	0.62 0.58	0.63 0.57	0.64 0.56

MC・ロッコール 55mmF1.7の被写界深度表

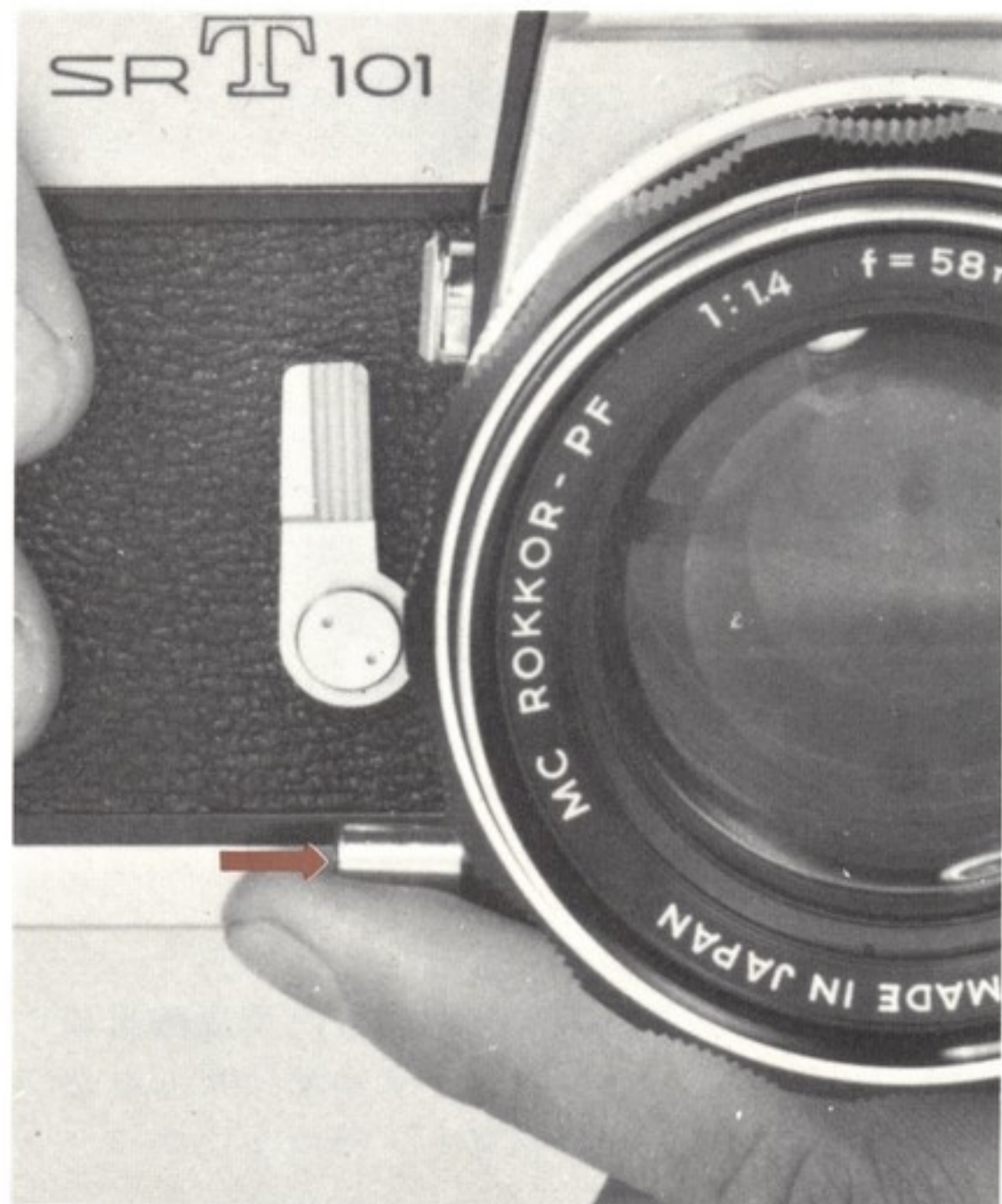
絞(F) \ 距離(m)	1.7	2	2.8	4	5.6	8	11	16
∞	∞ 53.4	∞ 45.9	∞ 32.5	∞ 23.0	∞ 16.3	∞ 11.5	∞ 8.2	∞ 5.8
10	12.3 8.4	12.7 8.2	14.4 7.7	17.6 7.0	25.6 6.2	72.6 5.4	∞ 4.5	∞ 3.7
5	5.5 4.6	5.6 4.5	5.9 4.4	6.3 4.1	7.1 3.9	8.7 3.5	12.5 3.1	33.9 2.7
3	3.17 2.58	3.20 2.82	3.29 2.76	3.43 2.67	3.64 2.55	4.00 2.41	4.64 2.22	6.01 2.01
2	2.07 1.93	2.08 1.92	2.12 1.89	2.18 1.85	2.26 1.80	2.39 1.72	2.59 1.63	2.96 1.52
1.5	1.54 1.46	1.55 1.46	1.57 1.44	1.59 1.42	1.64 1.39	1.70 1.34	1.80 1.29	1.97 1.22
1.2	1.22 1.18	1.23 1.17	1.24 1.16	1.26 1.15	1.28 1.13	1.32 1.10	1.38 1.06	1.47 1.02
1	1.02 0.98	1.02 0.98	1.03 0.98	1.04 0.96	1.06 0.95	1.08 0.93	1.12 0.91	1.18 0.87
0.9	0.91 0.89	0.92 0.89	0.92 0.88	0.93 0.87	0.94 0.86	0.96 0.85	0.99 0.82	1.04 0.80
0.8	0.81 0.79	0.81 0.79	0.82 0.78	0.82 0.78	0.83 0.77	0.85 0.76	0.87 0.74	0.90 0.72
0.7	0.71 0.69	0.71 0.69	0.71 0.69	0.72 0.68	0.73 0.68	0.74 0.67	0.75 0.66	0.77 0.64
0.6	0.61 0.60	0.61 0.59	0.61 0.59	0.61 0.59	0.62 0.58	0.62 0.58	0.64 0.57	0.65 0.56
0.55	0.55 0.55	0.56 0.55	0.56 0.54	0.56 0.54	0.56 0.54	0.57 0.53	0.58 0.53	0.59 0.52

絞り効果の確認は…

新たに開発設計されたMC（メーターカップラー付）レンズ群は、開放測光方式ですので、ファインダーは常に開放絞りになっています

被写界深度を含めた絞り効果の確認には、ボディ側の絞り込みボタンを押します。標準レンズ以外では、レンズ側にあるプレビューボタンを押す方が便利です

- 絞り込みボタンは最初の押しで絞り込まれ、再度の押しで開放となります（巻上げ後でないと絞り込みボタンは作動しません）
- 絞り込んだ状態でシャッターを切ると絞りは開放に戻ります

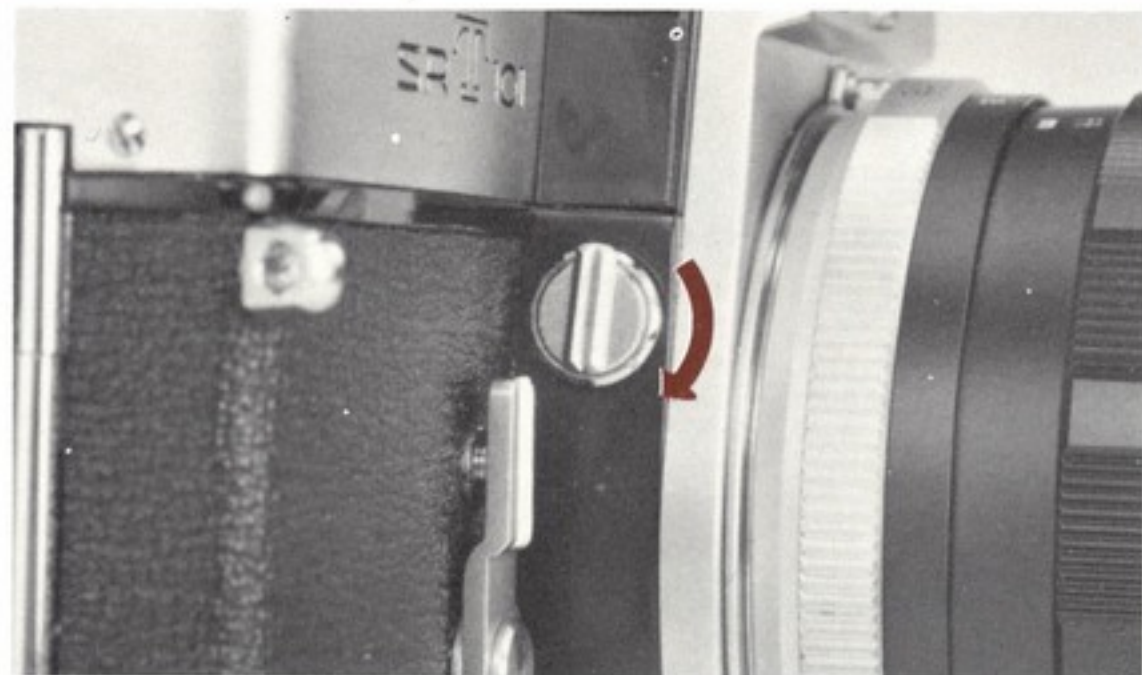


ミラーロックボタンの扱い方

ミラーロックボタンは超広角21mmレンズなどを用いるとき使用します。ロックボタンを矢印のようにまわすとミラーの上がった状態になり、逆にまわすとミラーはもとの位置に戻ります

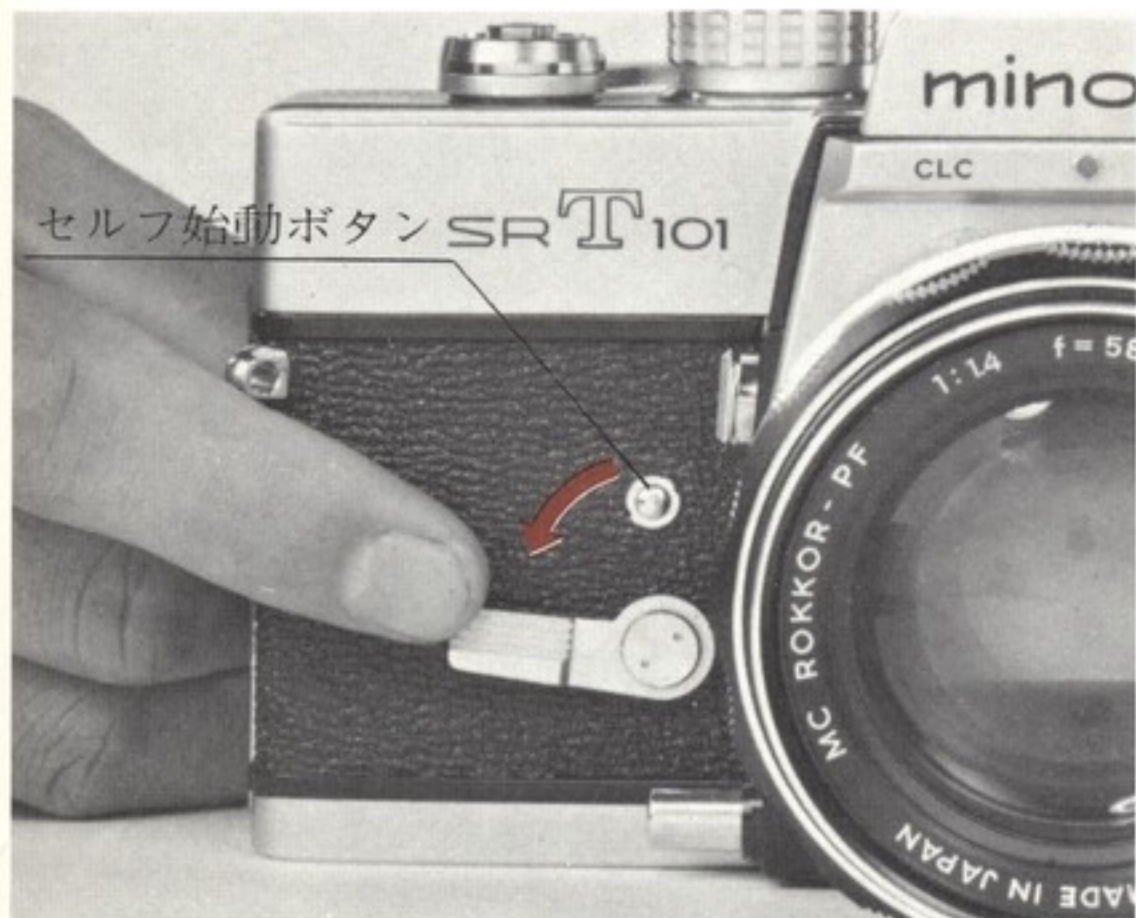
ミラーロックの操作はシャッター、フィルム巻上げに関係なく行なうことができます

☆ミラーロックした時には内蔵露出計は使用できませんので、ミラーロックする前に露出を合すか、または別の露出計をご使用ください



セルフタイマーはこんなときに…

みんなと一緒に記念撮影などを行ないたいときセルフタイマーが便利です。フィルムを巻上げてから、レバーを矢印の方に倒すと、セルフタイマーがセットされます。始動ボタンを押すと、セルフタイマーが作動し、約10秒後にシャッターが切れます



注意

- ☆セルフ始動ボタンを押してもフィルムを巻上げていないと、セルフレバーは途中でとまりますこのときはレバーをもう一度セットし、巻上げ再び始動ボタンを押してください
- ☆セルフタイマーをセットして、シャッターボタンを押すと、セルフタイマーは作動せず、シャッターが切れます

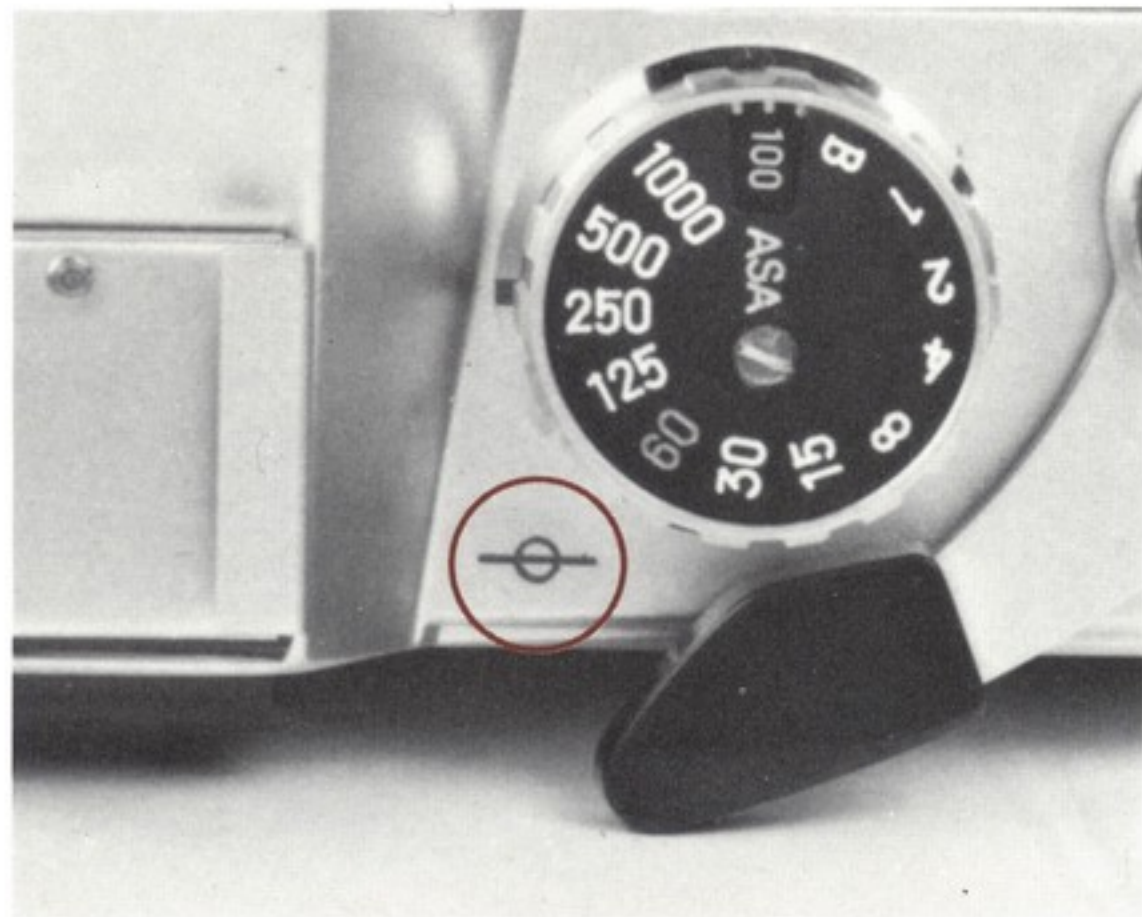
赤外撮影には赤外マークで…

赤外フィルムを使って赤外撮影を行なうときは一般の撮影の場合とピントのあう位置が異なります。ピントあわせの後で、距離目盛上の数字を深度目盛のRまでずらせて撮影してください。赤外撮影の場合の露出は、赤外フィルム使用法に従って行ないます。



⊖ マークはフィルム位置

カメラボディの上部にある ⊖ マークは、フィルム面の位置を表示しています。被写体までの距離はこの位置を基準にしてください。



フラッシュ撮影のやり方

夜間や暗い場所での撮影、あるいは昼間でも補助光としてフラッシュを用います。FP、Xの二種類のシンクロ接点があり、使用のスピードライト及び閃光球によってフラッシュガンのプラグをそれぞれのターミナルにさしこんでください

各閃光球とシャッター速度の関係は次の通りです

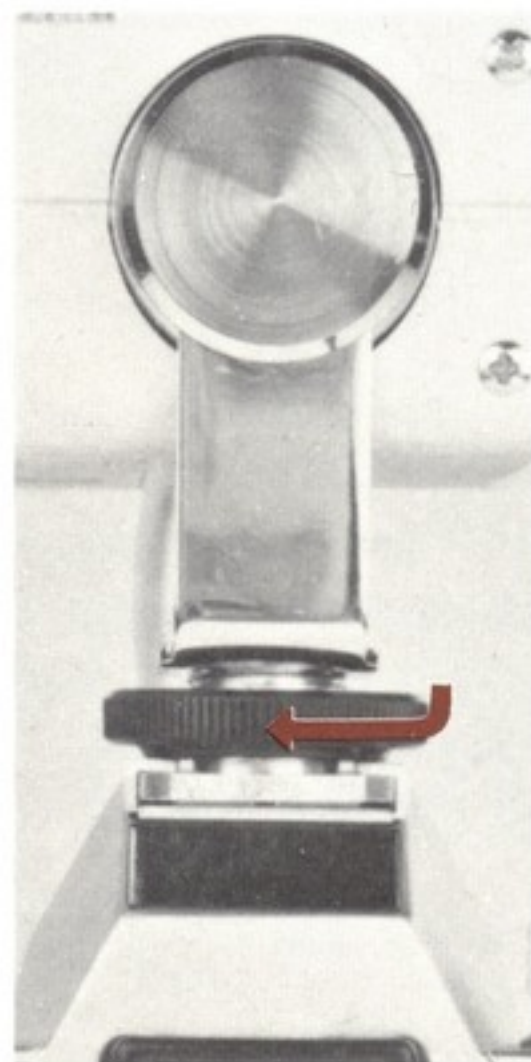
フラッシュ撮影組合わせ表

(斜線の部分が使える速度)

接点	閃光球	シャッター速度 (秒)											
		B	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60(X)	1/125	1/250	1/500	1/1000
FP	FP 級	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
X	F 級	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線						
	M 級	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線							
	ストロボ	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線					

●フラッシュガンの扱い方…

ファインダー上部のアクセサリシューに発光器の足をさしこみ、フラッシュガン进行固定します



フィルムの巻戻し方

●フラッシュ撮影の露出

フラッシュ撮影では、閃光球のガイドナンバーを基準にして露出をきめます。ご使用になる各閃光球にはガイドナンバーが表示されており、ガイドナンバーは被写体距離×絞り値で示されています

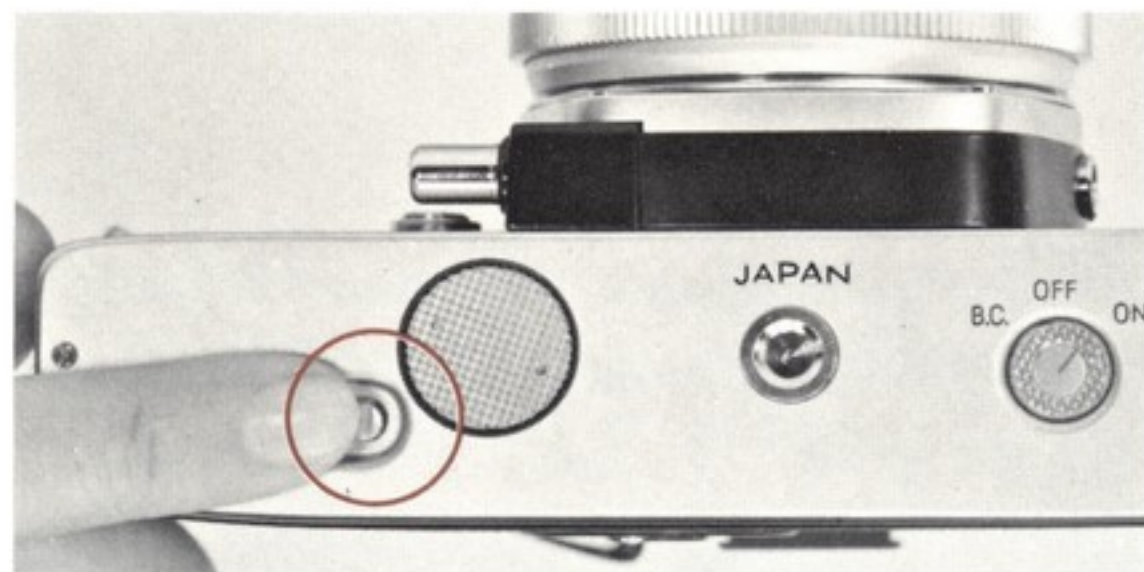
例えばASA100のフィルムを使って、シャッター速度 $\frac{1}{60}$ 秒で、ガイドナンバーが40の場合、被写体距離を5mとすると、 $40 \div \frac{(\text{ガイドナンバー})}{(\text{距離})} = 8$ となって、絞り値は8となります

各バルブに同調するシャッター速度はP-29の表を参照してください

☆ベースレスの小型(AG-1)などのMF級バルブを使用するときは、X接点にして $\frac{1}{15}$ 秒以下のスローシャッターを用います

☆ストロボ使用の場合は、特別の場合を除いて $\frac{1}{60}$ をご使用ください

☆明るい場所で補助ライトとして使用するときには主光線の露出に従います

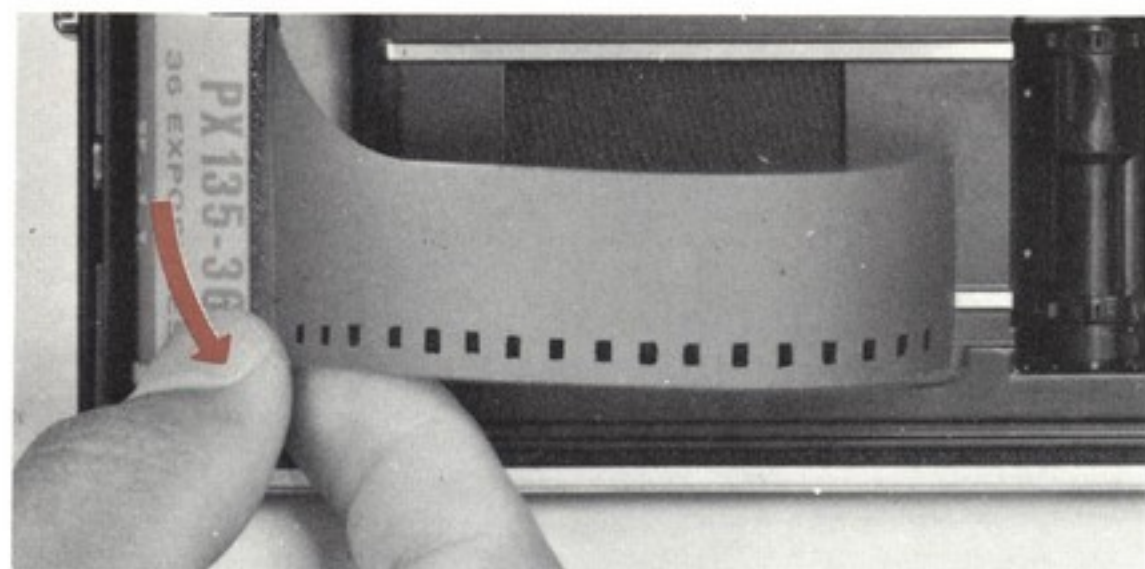


1 カメラの底部にある巻戻しボタンを押します
巻戻しボタンは指を離しても押されたままの状態になっています

(もし指を離したとき、ボタンがもとどおりでくる場合は、指で押したまま少し巻きもどし、ボタンから手を離してフィルムを巻上げ、もう一度巻戻しボタンを押すと、押込まれた状態のままになります)



- 2** 巻戻しクランクを起こして、矢印の方向にまわして巻戻します
フィルムが巻取り軸の溝から離れると、巻戻しが急に軽くなるので、手ごたえでわかります



- 3** 巻戻しノブを引きあげ、裏蓋をあけて、パトローネを取り出します

-
- ☆巻戻しボタンは、巻上げレバーを巻上げると、自動的にもとの状態に戻ります
☆フィルムを全部写し終わると、フィルムの最後で巻上げレバーがとまることがあります。この場合、巻上げレバーを無理にまわさないでください
-

レンズ交換のやり方



●レンズをはずすとき

レンズ交換はバヨネット式で、レンズ交換ボタンを下に押し、レンズを反時計方向にまわすとはずれます



☆レンズをはずしたとき遮光板にふれないでください
☆ボディ内やレンズ鏡胴にゴミが入らないようにしてください
☆はずしたレンズ面にキズや指紋をつけないように注意してください



●レンズをはめるとき

レンズの鏡胴の赤点とカメラ前板の赤点をあわせて、時計と同じ方向にまわすとカチリと固定します

●オートプリセットのとき



MCレンズ群を用いるときには、いずれも開放測光方式で使用しますが、従来からのSR用レンズ(S,Cレンズ)を用いるときは、絞り込み測光方式となります

- (1)レバーを巻上げてから、ボディ側の絞り込みボタンを押します
- (2)シャッター速度を決めレンズの絞りリングを回して露出を合わせます

●ハンドプリセットレンズのとき



シャッター速度を決め、プリセットリングをあらかじめ最小絞りの位置に回しておき、絞りリングを回して露出をあわせませす

又は、プリセットリングと絞りリングを揃えて操作してもよいのです

注意

- ☆これらのレンズでは露出あわせのあと、もしレンズを開放にすると、メーター指針は追針から外れますが、使用の絞り値を変えないときは再び露出合わせを行う必要はありません
- ☆これらのレンズではシャッター速度を変えると追針が動き、絞りを変えるとメーター指針の振れが変わります
- ☆ハンドプリセットレンズでは絞り込みボタンを使う必要はありません

SR-Tと各交換レンズ群の測光方法

SR-Tは新発売のMCレンズ群の他従来のレンズ群もTTL測光が可能です。各レンズ群の測光方法を次表に示します

但し、旧オートプリセットレンズの内一部使用できないものがあります。くわしくは各地サービス・ステーションにご相談ください

☆SR-Tには豊富な交換レンズ、アクセサリ類が用意されています。それらについては別冊のSR用交換レンズおよびアクセサリ解説書をご覧ください

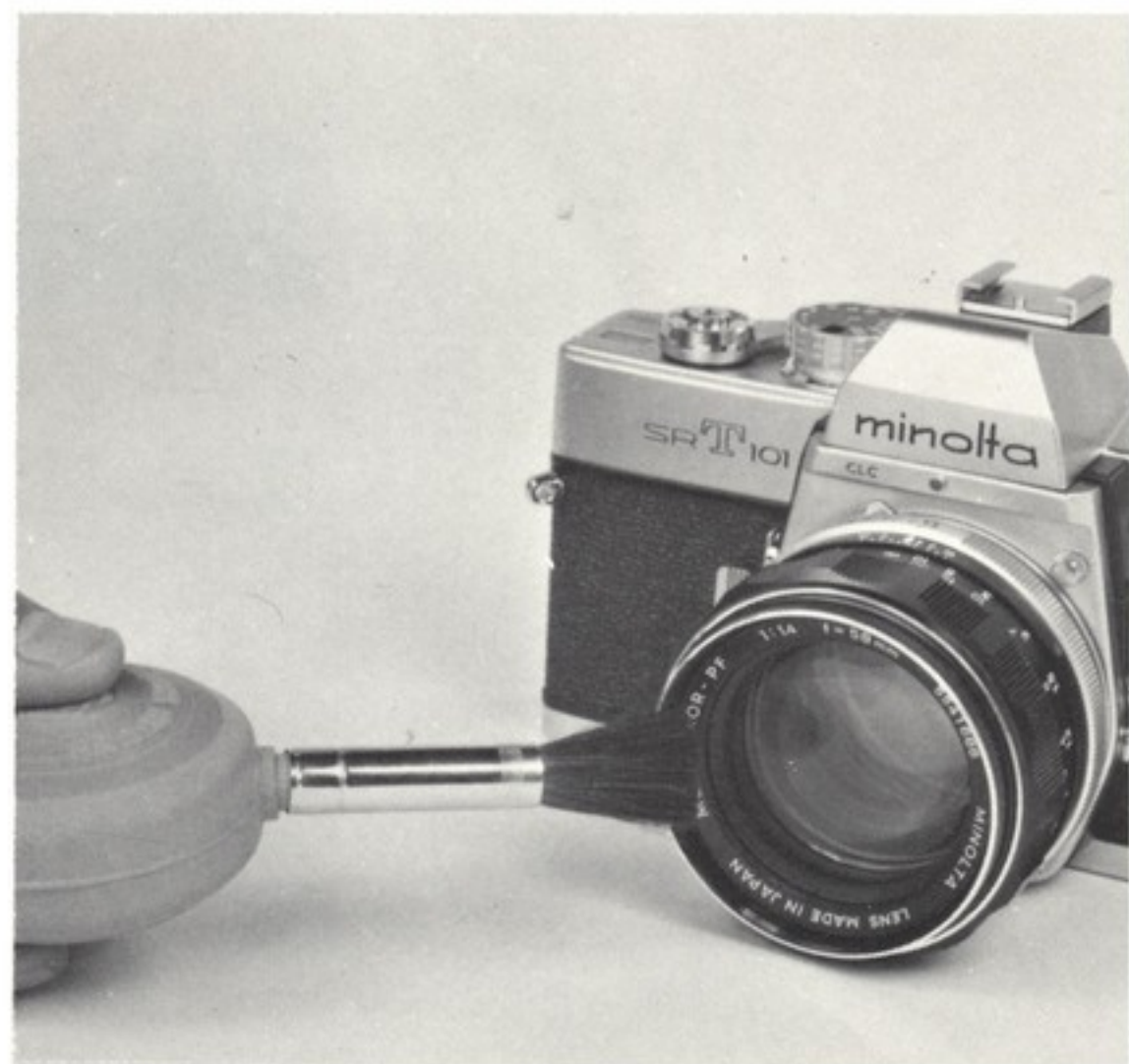
レンズの種類	測光方式		フィルターねじ径(mm)			備 考
	MCレンズ	S, Cレンズ	S	C	MC	
F2.8/ 16mm	開放測光					完全自動絞り 各種フィルター内蔵
F9.5/ 18		絞り込測光	37.5			普通絞り
F4 / 21			55			ミラーを跳上げて使う
F3.5/ 28	開放測光	絞り込測光	67		55	完全自動絞り
F2.5/ 28	開放測光				55	完全自動絞り
F4 / 35		絞り込測光	55	52		ハンドプリセット
F2.8/ 35	開放測光	絞り込測光	55	52	52	完全自動絞り
F1.8/ 35	開放測光				55	完全自動絞り
F2.8/ 45		絞り込測光		46		完全自動絞り
F1.8/ 55		絞り込測光	55	52		完全自動絞り
F1.7/ 55	開放測光				52	完全自動絞り
F1.4/ 58	開放測光	絞り込測光	55	55	55	完全自動絞り
F1.2/ 58	開放測光				55	完全自動絞り
F4 /100		絞り込測光		46		ハンドプリセット
F3.5/100	開放測光	絞り込測光	55	52	52	完全自動絞り
F2.5/100	開放測光				55	完全自動絞り
F2 /100	開放測光	絞り込測光	62		62	完全自動絞り
F3.5/135	開放測光				52	完全自動絞り
F4 /135		絞り込測光		46		ハンドプリセット

レンズの種類	測光方式		フィルターねじ径(mm)			備考
	MCレンズ	S, Cレンズ	S	C	MC	
F2.8/135	開放測光	絞り込測光	55	55	55	完全自動絞り
F5 /200		絞り込測光		52		ハンドプリセット
F3.5/200	開放測光	絞り込測光	67		62	完全自動絞り
F5.6/300		絞り込測光		62		ハンドプリセット
F4.5/300	開放測光				72	完全自動絞り
F4.5/300		絞り込測光	77			ハンドプリセット
F5.6/600		絞り込測光		126		ハンドプリセット
F6.3/1000		絞り込測光	49			フィルターによる光量調節式
ズーム F3.5/50-100		絞り込測光	77			完全自動絞り
F3.5/80-160		絞り込測光	77			完全自動絞り
F5.6/100-200		絞り込測光		52		ハンドプリセット
F8 /160-500		絞り込測光	77			完全自動絞り
マクロ F3.5/50	開放測光	絞り込測光	55		55	ハンドプリセット 完全自動絞り (MC)
F4 /100		絞り込測光		55		完全自動絞り
蛇腹用 F4 /135		絞り込測光	46			ハンドプリセット

カメラの保存と手入れ

ゆきとどいたカメラの手入れが、カメラを長持ちさせます。レンズにゴミやホコリ、あるいは塩分がかぶったときには、ゴム球のブローアードでゴミやホコリを払い、それからシリコンクロスなどで軽くふいて下さい。これでも汚れがとれないときは、よく洗った清潔な木綿の布、またはレンズクリーニングペーパーにアルコールとエーテルの混合液（アルコールとエーテルの割合は6対4ぐらい）あるいは市販の液体クリーナー（コダック、フジフィルム製等）につけて、レンズ中心からうずまき状に軽くふきます。このとき使用液を一滴ほど浸みこませてふいてください。きれいに取除けます。レンズを清掃する場所はレンズ前玉表面と後玉の表面のみにしてください。分解する場合はメーカーにご相談ください。レンズをはずしたときにミラーや遮光板にふれないで下さい

保存には高温多湿、塩分のあるところはさけて下さい。レンズは距離目盛を ∞ に合わせて、シャッターを切っておきます。長期間使わないときは水銀電池は取出しておきましょう。シリカゲル等の乾燥剤と一緒に保存するように心掛けて下さい



Minolta

ミノルタカメラ株式会社

大阪：大阪市南区塩町通り4の18 (06)271-8671

東京：東京都中央区銀座6丁目17番2号 (03)542-1261